

平成27年8月13日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日 時	平成27年8月13日(木) 午前9時30分
場 所	区議会 第1委員会室
開 会	午前9時30分
閉 会	午後4時43分
出席委員	
委 員 長	横 井 利 男
委 員	雁 部 隆 治
委 員	阿 部 博 道
委 員	坂 根 慶 子
教 育 長	横 山 信 雄
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岩 佐 一 郎
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	高 橋 宏 幸
学 務 課 長	須 藤 浩 司
指 導 室 長	月 田 行 俊
生涯学習課長	岡 本 香 織
スポーツ振興課長	佐 久 間 英 樹
ひきふね図書館長	石 原 恵 美

2 議題について

(1) 議決事項

第1 議案第61号 平成28年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について

第2 議案第62号 平成28年度使用教科用図書(特別支援学級用)の採択について

3 会議の概要について

横井委員長 ただ今から教育委員会を開催します。本日の会議録署名人は雁部委員にお願いいたします。まず、日程に先立ち、会議の傍聴の取扱いについて協議願います。本日の会議は、傍聴希望が多いと予想されたことから、教育委員会室よりも広い区議会の第1委員会室を会場とさせていただくこととしました。本委員会の傍聴については、墨田区教育委員会会議傍聴規則第3条第1項の規定により定員が10人とされておりますが、本日の会議については、同条第2項の規定により一般傍聴を20人までとさせていただき、そのほかに区議会議員及び報道関係者の傍聴も認めることといたしたいと考えております。これにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、そのように取り扱うことといたします。なお、本日は、廊下を挟んだ向かいの第2委員会室にもモニターを設置して、多くの方に会議の様子をご覧いただくよう対応いたしますので、委員の皆様には、あらかじめご承知おき願います。また、本日は、議事の都合により、適宜教育委員会を休憩することがあると思いますが、ご了承下さい。それでは、日程に従って進めさせていただきます。

議決事項第1

議案第61号「平成28年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」を上程する。

指導室長 議決事項第1・議案第61号「平成28年度使用墨田区立中学校教科用図書の採択について」ご説明いたします。提案理由は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条の規定により、採択する必要があることとしてございます。この度の採択につきましては、学習指導要領の大幅な改訂はございません。しかし、平成26年1月28日付で、中学校については、「中学校学習指導要領解説」社会編が一部改訂されております。この「学習指導要領解説」は、大綱的な基準である学習指導要領の記述の意味や解釈などの詳細について説明するため、文部科学省が作成しており、改訂のポイントとしましては、「領土に関する教育の充実」と「自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実」の2点です。詳細については、社会科の採択の前にご説明いたします。今回は、平成28年度から31年度にかけて、本区の中学校で使用する教科用図書につきまして、9教科、15種目の見本本全66者から、種目ごとにご審議いただき、それぞれ種目ごとに1者を採択願います。

横井委員長 ありがとうございます。審議に入る前に、これまでの経過等について確認させていただきます。墨田区立小・中学校教科用図書採択事務取扱要綱に基づき、4月30日から6月10日までの間、教科ごとの教科用図書調査委員会を設けて専門的な調査を行うとともに、6月9日から7月3日までの間、すみだ生涯学習センター内に教科用図書を展示し、ご来場された区民の方々からもご意見を伺いました。6月16日に教科用図書採択検討委員会を立ち上げ、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見等を資料として、6月29日までの間、計5回の教科用図書採択検討委員会を開催し、全ての教科用図書について検討を行いました。そして、7月9日に墨田区教科用図書検討委員会より報告書を受け取りました。さらに、委員の皆さんは、7月23日から7月31日までの間、全ての教科の教科用図書を実際に手にして、教科用図書調査委員会からの報告、学校からの調査研究報告、区民からの意見等にも目を通していただき、教科用図書の細部にわたりご検討していただいたところです。本日も会場に教科用図書、各報告等を用意しておりますので、

必要に応じてご確認いただきながら、審議をお願いいたします。審議の順序ですが、国語から順に、9教科15種目について審議をいたします。なお、各教科等の審議の冒頭に、学習指導要領に定める教科ごとの目標等について指導室長から説明をしていただきたいと思います。それでは、「国語」について、審議いたします。指導室長お願いします。

【国語】

指導室長 国語についてご説明いたします。国語の教科の目標は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる」となっております。次に、学習指導要領における主なポイントを2点申し上げます。1つ目は、言語活動の充実でございます。発表、案内、報告、討論、鑑賞、批評などの言語活動が具体的に示され、これらを適切に実施することが求められております。2つ目は、「話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと」の各領域の偏りのない総合的な国語力の育成が望まれております。国語の現在使用している教科書は「光村図書出版株式会社」でございます。全5者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、国語の教科書について、委員の皆さんのご意見をお願いいたします。はい、坂根委員どうぞ。

坂根委員 ただいま、学習指導要領の改訂のポイントについて、指導室長からお話がありました。私の国語採択のポイントを申し上げます。国語という教科は他の教科の基幹になるものです。その一番大切なことは思考力を養成するというところでございます。残念ながら、区の学力調査で、記述式解答にほかの教科も含めてですが、無解答の率が高いです。やはり思考力の養成が不十分かと考えますので、そこを中心に採択を考えています。国語の領域に関する言語による思考力の養成を考えますと、私は結論として、第1に光村図書、第2に三省堂と東京書籍を推薦します。理由の一つとしては、光村図書は、「話す、聞く、書く、読む」、また、伝統的な言語文化の教材バランスが良いです。それから、最初に学習の見通しが書いてありますが、それが詳し過ぎないです。また、説明的文章が一番多く扱われています。その中でも「書きおろし」が多いということも勧める理由です。書きおろしの説明的文章は、日常生活で一番触れることの多いタイプの構文、語彙を用いて展開されている文だと考えます。また、書きおろしは教材として扱いやすいという点があります。1つの例を挙げます。光村図書1年の164ページ、「幻の魚は生きていた」、中坊徹次さんの文です。環境に関する説明文ですが、約6ページあります。この教材の扱いは171ページにあります。文章を序論、本論、結論に分けて内容を捉えよう。また、中心文を取り上げるというようになっています。これが最後に要旨をまとめる良い方法です。このような形で、適当な分量の教材というのは書きおろし以外なかなか難しいと考えます。また、2年の146ページ、「漢詩の風景」というのがございます。これは石川忠久先生の書きおろし、この分野では第一人者です。漢詩に関しましては、ほかのどの社も説明的な文章部分の作成は編集部によるものと考えられます。しかし、光村図書は本書のための書きおろしです。特徴としては杜甫の草堂とか、黄鶴楼の写真もあります。また、ここでは、「起承転結」という文章構成法は漢詩の、特に絶句に特有な構成法であるということが明確に書いてあります。「起承転結」は文章構成の一つの方法だと考えられがちですが、ここでは、絶句の構成法であって、文章の構成法ではないことが明確に書かれています。次に文学作品について申し上げます。1年ではヘルマン・ヘッセの「少年の日」、2年で「走れメロス」、3年で魯迅の「故郷」が扱われております。この中で、

出典に関しては光村図書が一番きちんと書いてあります。それは、作者、それから訳者のこと、写真、作者の本名その他などもきちんと書いてあります。文学作品についてはその扱いが、教師の考えや学習者の考えによって左右されるものですが、詳しく解説し過ぎていない点がよく思われます。古典の取り扱いについては、上段は原文、下段が訳、欄外に説明、意味という形になっている点を評価します。これも原文を音読するのに適当かと思えます。書くことの本分野に関しては、私は、三省堂、東京書籍がすぐれていると思えます。三省堂1年の32ページです。これは見開きで、読み方を学ぼう、説明文の基本構造というのがあります。「ペンギンの防寒具」というのがありますが、この中で、序論、本論、結論の意味と書き方、また進め方の所では順序をあらわす言葉、こういう詳しい説明がされています。これも書きおろしです。このような作業をするものについては、例文となる文章の分量とともに書きおろしということが非常に大事かと思えます。同様の観点から見てみます。東京書籍1年の98ページに、事実と考えを区別する、それから2年の29ページ、要約する、意見文の所、これもすばらしい形であります。教育出版は、「四コマ漫画から意見文を書く」という条件作文の形にもなっております。話す、聞くに関しては、各社、スピーチ、ディスカッション、パネルディスカッション、また、三省堂ではワールドカフェ方式なども用いています。いろいろな形で用いていると思えます。しかし私の考えでは、全体的にレポートや論文に関しては社会科や理科で扱われている文章のほうが例としてすぐれています。これは、題材の扱い、つまり調査、観察という点で、社会、理科の文章例に優れたものが多いからだろうと思えます。また、国語は縦書きなので、レポートなど文書作成に対して難しいところがあると思えます。その他の観点ですが、学校図書は教材が多彩です。文学作品に、開高健とかウルフ・スタルク、伊集院静もありました。中学生では触れる機会の少ない作家を選んでいきます。三省堂は、教材数が若干少ないです。教育出版は、文法に関して具体的な発話から入っている点が評価されると思えます。例を交えましたが、ここで私の主張を終わりにいたします。

横井委員長 ありがとうございます。何かご意見がありましたら、委員さん、お願いします。雁部委員、どうぞ。

雁部委員 私は保護者代表ですので、全体的な観点から意見を述べさせていただきます。まず、国語に関しては、本命は光村図書、対抗が東京書籍。まず、光村図書は、1年生の教科書を中心に。まず見た目ですが、色使いがとても優しくて、とてもよいと思いました。1年の8ページ、先ほど坂根委員からご指摘がありましたけれども、学習の見通しを持つという、これを表形式にしている、とてもシンプルでわかりやすいと思えます。22ページ、調べるところで、国語辞典、漢和辞典の使い方が明記してあります。中身は、各単元の最後に漢字の読み書きがありまして、特に下段の小学校で習った漢字を復習しているところは、確かな学力の定着に適していると思われれます。34ページには、上段が新しく習った漢字、下段が小学校で習った漢字。各単元、題材が変わっても同じようなスタイルで進められているところは、学習の習慣化を促して、とてもよいと思えます。また、88ページから93ページに、読書活動の中の「本の世界を広げよう」もとてもきれいで、まとまって読みやすいと思いました。ただ、気になることは、他社に比べてページの数字が上段に記してあります。ちょっと慣れる必要があるかとは思いますが、もう少し字を大きく見やすくしていただくとありがたいなと思いました。続きまして東京書籍。巻頭の「四季を楽しむ言葉」というのは、大変和やかにさせてくれますので、良いと思いました。見開きの9ページから16ページ、ここも学習の進め方、教科書の使い方はわかりやすく載っていて良いと思えます。17ページから18ページに入り

ますと、「言葉を楽しむ」の章で、まず話し方はどうかという文章になっておりますが、こういう題材から入るのは、とても導入としては優しくておもしろいと思いました。82ページに読書への招待ということで碑。こちらは広島原爆のことを取り扱っております。原爆ドームの写真も載っていて、これも、戦争が悲惨なものだということをお子たちに伝えるのはとても良いことだと思います。あとは、各単元の脚注で漢字の読みを表示している。また、226ページですが、小学校6年の漢字一覧で振り返りができるようになっております。299ページの「言葉を広げよう」というところで、よく使われる言葉と、その例題が出ていて、これもおもしろいと思いました。あと気になることは、2年、3年生になると字が若干小さくなるということで、その辺はちょっと気がかりなところでした。学校図書を説明いたします。学校図書については、昔から文学的作品を多く取り上げ、読書活動が充実しています。今回は言語活動に非常に力を入れているのがわかります。ただ、全体的に分量も多く、少し難しいかなと思いました。三省堂は、光村図書同様、領域的教材一覧で目的を明確にしている。読み方を学ぼうと、資料も豊富であるが、これも墨田区の生徒にはやや難易度が高いように思いました。教育出版については、表紙はシンプルですが、教科書の中の色みがやや黄色く、ちょっと見づらかったと思います。小学校からの導入には大変配慮していると思います。ただ、各単元の構成が少しわかりにくいように思いました。全体的なバランスを考えると、光村図書がいいかなと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかの委員さん。阿部委員さん、どうぞ。

阿部委員 私も結論から申し上げますと、光村図書が一番良いと考えています。既にいろいろご意見が出ていますので、私は少し別の観点から考えてみたいと思いますが、3つのポイントから見てみました。一つは読書活動の充実ということで、教科書の本文に書いてあるいろいろな作品から、子供たちが興味を持って関連する図書にどんどん読書の範囲を広げることによって、国語の勉強が広がるだろうということで、読書への誘引をどう図っていくかということを見てみました。この点からは、東京書籍、教育出版、光村図書の3社に関しては、それぞれの章の後半に関連する図書を紹介するとともに、その図書についての内容とかコメントが詳しく載っています。例えば教育出版1年を例にとると157ページで、説明は簡単ですが、本の写真と説明が載っています。それから、光村図書は1年90ページになりますが、同じように「本の世界を広げよう」ということで、かなり豊富に本の写真と解説が載っています。東京書籍では1年94ページにも同じように「読書案内」ということで、やはり本の写真と読書の案内が詳しく載っています。こういうことで、子供たちが本文で読んだ内容をさらに広げて読書を深めるということで、非常に良い内容だと思います。それから2番目に考えたのは、伝統的な言語文化をどう扱っているか、いわゆる古典の扱いをどうしているかということです。これについてはどの教科書も、「竹取物語」とか「徒然草」、「枕草子」、「平家物語」、あと漢文とか論語など同じような題材を扱っていますが、この中で一番光村図書の扱いが丁寧で、詳しくわかりやすく述べているような気がします。例えば1年では、139ページから始まり、まず140ページのスタートに「いろは歌」を説明し、それから百人一首の一部、そして「竹取物語」と入っていくので、非常にわかりやすいのではないかと思います。ほかに、例えば光村図書の3年の巻末、256ページ以降ですが、古典・近代文学の名作ということで著名な古典の紹介をしているなど、古典を丁寧に扱っている印象を受けたので、この点はとても良いと考えました。3番目に、漢字の勉強をどう扱っているかという観点からも比較してみました。これはどの教科書もそれなりに漢字の勉強に力を入れていますが、その中でも教育出版あるいは光村図書については、出てくる漢字の書き順がわかるよう

な一覧がついていて、漢字の勉強についても非常に意識を払っているなという印象を受けました。若干つけ加えますと、光村図書は写真とか図版が非常に鮮明できれいな印象を受けたこと、それから途中に「季節のしおり」という欄がありまして、例えば1年の35ページのところは春、四季のページに、それぞれ歌とか簡単な文章で、日本語の美しさや日本人が持っている季節に対する感性を、さりげなく本の中で説明しているということで、非常に文章がしっとりとした印象を受けましたので、いろいろ総合的な観点から、光村図書が使いやすいのと、子供たちに国語に対する興味を湧かせるような工夫がなされていますので、一番良いという結論です。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では教育長、どうぞ。

教育長 結論から申し上げますと、私も光村図書を推したいと考えております。その理由としては、区の学習状況調査における中学校国語科の観点別正答率ですけれども、これまでの取組の成果が徐々にあらわれている中で、言語についての知識・理解、技能の観点の、漢字を書くにはまだ課題があります。どの学年にも共通していることですが、小学校で学習した漢字を書くことが定着していないという報告もあります。そうした中で、他社の本でも小学校6年で学習した漢字一覧は掲載されておりますが、光村図書本では、漢字一覧だけではなく、例えば257ページに、小学校6年で学習した漢字の書きの練習ができるよう、数ページにわたってあります。この点が良いかなと思います。加えて、言語能力の向上の要である、話す、聞く力の育成の面では、1年では175ページにグループディスカッションについての話。それから、2年では166ページにパネルディスカッション。それから、3年では168ページに、課題解決に向けて会議を開くということで、具体的な会議のやり方等について、それぞれ取組方がわかりやすく掲載されています。学年を追って発展的に展開されているところが大変良い点であるように考えます。こうした点から、光村図書を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。そうしますと、委員の皆さんは大方、光村図書ということで、光村図書で結構だと思いますが、私も考えたところがありますので、お話をさせていただきます。他社も含めまして、どの教科書も大変よくできているなと思いましたが、光村図書で良いところは色々ありますが、例えば3年146ページ。「おくのほそ道」はどの会社も扱っております。大体同じような展開になっておりますが、148ページに、「おくのほそ道」をたどった地図がありますが、他社も同じような地図が大きさは違ったりしてありますけれども、この地図をよく見ると、スタート地点が深川で、その隣に隅田川と書いてありまして、千住と書いてあります。我々に身近な土地が書いてあります。他社も同じ地図はありますが、例えば深川とか江戸とかというスタート地点が書いてあって、我々の隅田川という表記がなくて、こういうところを扱うときに、「この隅田川を通ったんだね」という話題が出るとすれば、「おくのほそ道」も身近になるのではないかと思います。それから、2年で各社とも「平家物語」を扱っております。題材は那須与一の扇の的話か、敦盛、熊谷次郎直実が平敦盛の首をとるというお話のどちらかであります。中学2年生が対象なので、いくら昔の話とはいえ、大人が子供の首を切る話というのは余り気持ちのいいものではないから、私としては個人的に那須与一の扇の的話のほうが良いと思いましたが、光村図書と東京書籍が那須与一の話になっております。もっとも、扇の的話も、その後、立派だと言った平家の侍を射殺してしまいますから、残酷といえば残酷であります。そういうような点で扇の的話のほうがまだ良いと思いました。光村図書で少し残念なことは、私が見た限りでは、芥川龍之介の作品がないです。他社が全てありますが、見落としもあるかもしれません。ただ、墨田区だと森鷗外もどうかと思っていましたら、森鷗外は載ってありました。昔の話で、「古事記」のようなものにも親しませられたら良いと思

っておりましたら、東京書籍と三省堂が「古事記」について扱っておりましたが、光村図書は扱って
おりません。百人一首も扱えれば良いと思って、先ほど阿部委員からもご指摘あったように、教育出
版1年の巻末に折り込みで百首全部書いてありましたので、これは良いと思いました。一長一短ある
わけですが、光村図書で最終的に、私がこの題材はぜひ子供たちに扱わせたいと思ったのは、2年2
72ページに、それは資料の扱いですが、「五重塔はなぜ倒れないか」という話で、これは実はスカ
イツリーが倒れないということの原理の説明文なわけです。ですから、多面的に学ぶというときに、
これは歴史にも関係ありますし、墨田区の地元にも関係あります。少し残念なことは、本文にスカ
イツリーもその原理を使っていると書いてあれば良いと思いました。ただ、これを学習しておくことは
非常に重要なことだと思ひまして、良い題材だと思ひました。ということで、私も皆さんと同じで、
光村図書で結構ではないかと思ひますが、ほかに何かご意見ございましたら。はい、坂根委員。

坂根委員 はい、光村図書2年の資料238ページ。芥川龍之介の作品がないのですが、こちらに、
郷土ゆかりの作家・作品の中、「東京都、芥川龍之介、大川の水より」とありまして、後ろに、「大川
端とは隅田川下流の右岸一帯を指す」と。この「大川の水」、私、存じ上げませんけれども、こうい
う作品もここに書くということは、墨田区の教材には適していると思ひました。それから、光村図書
では裏表紙いっぱい、日本の色の言葉と色見本をカラーで示しています。例えば浅黄色とはどうい
う色であるとか、とき色はどのような色であるとか。色の言葉は文学作品に出てきましても、実際の色
は見ないとわからないので、なかなか貴重なものだと考へます。

横井委員長 ありがとうございます。あと、よろしゅうございますか。それでは、「国語」について
の採択をいたします。「国語」の教科書は「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思ひ
ますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定いたします。引き続き、「書
写」について審議をいたします。指導室長、説明をお願いいたします。

【書写】

指導室長 書写に関する指導事項は、「字形を整え、文字の大きさ、配列などに理解して楷書で書く
こと、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方
を理解して読みやすく書くこと、身の回りの多様な文字に関心をもち効果的に文字を書くこと」など
が記されております。指導の時数は、第1学年及び第2学年では、年間20時間程度、第3学年では
年間10時間程度とされております。採択にあたっては、系統的な配列、学習意欲を喚起する構成、
硬筆と毛筆との関連や生活に生かす視点、手本の確かさと美しさ、視覚的な工夫などの観点等も考へ
してご審議ください。書写の現在使用している教科書は「光村図書出版株式会社」でございます。全
5者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さん、ご意見をよろしく願ひします。
坂根委員、どうぞ。

坂根委員 書写の教科書は、どの社のも大変よくできていると思ひます。これは、文字文化に親しん
で、日常生活の中で使えるものという点では、一生ものの価値があるものだと全てについて思ひます。
各社の特徴として、俳句や短歌の短冊の使い方などを書いてあるところもあります。篆刻もあります。
その中で私が教科書として一番推薦するのは光村図書です。なぜかと申し上げますと、必要な項目は

漏れなく入っていて、多過ぎないことです。重要な点が一つ一つ丁寧に説明されています。4ページを例にとると、横と縦に書くときの姿勢の違い、筆記具の持ち方、片づけ、きちんと洗って、しまうことまで書いてあります。書き方については26ページを見ると、点画の方向や形の変化と、行書の形と楷書の形、これを必ず書いています。そして次に実際に書くほうでは1点だけ、毛筆で書こうとなっています。この簡素さが、こういう技能を習得させるのに一番だと思います。実用文も、この量で十分だと思います。手紙や封筒や一筆箋、のし袋、願書の書き方などがあります。はがきについては、往復はがきの書き方、返信の書き方の指導があります。他に2社ありました。はがきでの出欠を問うところで、「ご」を消して「出席」に「 」は同じですが、ほかの2社は「させていただきます」になっていましたが、光村図書は「します」だけです。「させていただきます」という表現は、ビジネスではよく使われていますが、時には慇懃無礼に聞こえると思いますので、「します」または「いたします」で十分だと考えます。もう1点、私が疑問に思うものがあります。どの社にも過去のすぐれた筆跡の見本があります。一葉ですとか、良寛とか。教育出版もそうですが、この教育出版の34、35ページには、「文字は残る」というのがあります。ここの見本となる芥川龍之介と宮沢賢治の「蜘蛛の糸」と「雨ニモマケズ」の原稿ですが、はっきり言って下手な字です。なぜこういうものを出すのか、私には指導方法がよくわかりません。このように偉大な作家でも詩人でも文字は残るから、しっかりと勉強しましょう、または、こういう人たちも下手な字だから、あなた方も安心して勉強してくださいというのでしょうか。これを使った子供たちからの意見がありましたら知りたいと考えております。蛇足になりましたが、これで推薦の理由を申し上げ、終わります。

横井委員長 下手な人への励ましではないかと思えますけどね。ほかに、委員さん、何かご意見ありましたらお願いいたします。

阿部委員 それでは、申し上げます。私も書写については光村図書が良いと考えます。光村図書は、楷書と行書を比較して、書き方を詳しく説明している点がとても良いと思います。それから、朱文字によって筆の運びとか、押さえたり送ったりというのが、他社と比べてわかりやすいと思いました。それから行書については、いろはから入っており、実際に行書の書き方を、教科書をなぞって覚えられるような工夫がなされていますので、非常に練習するのに便利だと思いました。それから、実際に文章を書く上で、硬筆の場合、例えば60ページに、縦書きの文章とか横書きの文章を、それぞれの文章の書き方を説明していますが、これは教える機会が少ないので、良いと思います。その他に光村図書はその後ろに手紙の書き方とかエアメール、いろいろな願書の書き方など、ほかの社も同じような書き方の説明はありますが、こういう資料が載っていて、非常に使いやすいと思います。あと1点だけ、東京書籍が若干サイズが他のと比べて大きいので、見やすい点はあるかもしれませんが、机の上に置いて習字をしたり、あるいは文字を書いたりするときに、少し邪魔になるのかなというところが気になりましたので、総合的に考えて、光村図書が一番良いと判断しました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかに何か。雁部委員。

雁部委員 私も、結論から言いますと、光村図書をお勧めしたいと思います。言いたいことはほとんど言われてしまいましたので、簡単に説明いたします。光村図書は、基本に忠実であるということ。4ページの筆の持ち方、姿勢も、5社の中で一番わかりやすいと思います。朱文字の見本も大変良く、60ページの手紙の書き方は、やはり縦横両方掲載されていて、説明もわかりやすくなっていると思います。ただ、難点を申し上げますと、毛筆で最初に「地球」という字を書くということで、ちょっと字画が多いので難しいかなと思いました。教育出版ですが、44ページの標準、行書の筆遣い。こ

の朱書きの筆遣いのところは、2ページにわたって大きく書いてあるので、すごくわかりやすいと思いました。あと114ページ、ここも手紙の書き方ですが、下段に時候の挨拶等も載っていて、丁寧に説明されていると思います。92ページから95ページですが、こちらは、活動した生徒と一緒に作品が載っているところがとても良いと思います。東京書籍ですが、こちらにも基本的に忠実で、光村図書同様、筆の持ち方、朱書きの見本は大変良くできていると思います。他社に比べカラーを多く採用しているのも特徴です。東京書籍40ページに、用具・用紙のできるまでというところで、いろいろなものを写真で紹介していますが、他社にはないボールペンと消しゴムができるまでについても扱っているのが良かったと思います。ただ、A B判で大きいので、机の上では少し使いづらいのかなと思いました。学校図書は、他社に比べ、筆の持ち方、あるいは朱書きの見本等は小さめで、見づらいと思いました。「書写の窓」で作品や資料を紹介しているのは良いと思いました。学校図書109ページから、篆刻を扱っているのはここだけなので、これは非常に良いと思います。子供たちの展覧会の作品にも篆刻の作品が出品されておりますので、その辺も扱っているのはとても良いと思います。ただ、全体的に見ますと、もう少し基礎・基本を重点的に、丁寧に扱ってほしいなと思いました。三省堂につきましては、他社同様、筆の使い方等は良いと思います。26ページ、60ページのように、「生活に生かそう」の欄は実生活へ活用できるような構成になっていて、とても良いと思いました。3年は硬筆重視になっておりまして、毛筆が少し足りないと思いました。全体的なバランスを考えて、光村図書が良いと思いました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。教育長、どうぞ。

教育長 それぞれの教科書の特徴点等については、今、委員からそれぞれ言われておりますので、結論だけ申し上げますと、毛筆、硬筆やデザインなど多岐にわたっている構成、また、効果的な文字の使い方として、新聞、レポートの書き方、願書、送り状やのし袋の実用的な使い方が載っているほか、先ほど採択しました国語の教科書とリンクして使いやすい、そういう点から、私も光村図書を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ということで、これも光村図書で皆さんのご意見です。私も光村図書で構わないと思いますが、例えば「いろは歌」は他社も扱っておりますが、七五・七五で改行してあることが、重要なことだと思います。他にもありますが、そういうことが配慮されていること。それから、皆さんご指摘ありましたが、硬筆の手紙の書き方で、光村図書60、61ページに、他社も同じようなものありまして、先ほど出たのは教育出版もありまして、114、115ページです。光村図書は、手紙、縦書きの手紙の横に横書きの文書があって、これ、文書の形式としては61ページの横書きでいいと思いますが、信書の手紙だとすると、これは教育出版115ページの下にあるように、宛名が上で差出人は普通最後に書きます。そういうこともどこかで指導されたら良いと感じます。ですから、普通の通知文書と違いますか、公文書的な書き方の場合でしたら、宛先があって、差出人があって、メインの文書が来るわけですがけれども、信書の場合には差出人が一番下に来る。以前、私は横書きの信書をいただいたときに、本文があって、差出人があって、宛先が一番下に書いてあることがありましたから、そういう間違いがないようにという意味では、こういった配慮が必要だろうなと思いますので、指導のときには具体的に、そういうことも含めて指導されると良いと思います。他にご意見よろしゅうございますか。それでは、「書写」について採択をいたします。「書写」の教科書は「光村図書出版株式会社」を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「光村図書出版株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、引き続きまして「社会(地理的分野)」について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願い致します。

【社会(地理的分野)】

指導室長 地理的分野について説明いたします。社会科の目標は「広い視野に立って社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」となっております。また、地理的分野の目標は「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土に対する認識を養う。」となっております。次に学習指導要領解説の改訂ですが、「領土に関する教育の充実について」は、「竹島について、我が国の固有の領土であることや韓国によって不法に占拠されていること、韓国に対して累次にわたり抗議を行っていること等を扱う」こと、「尖閣諸島について、我が国の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないこと等を理解させる」ことの2点を明記したことでございます。また、「自然災害における関係機関の役割等に関する教育の充実について」は、「我が国は、東日本大震災等の大規模な地震や毎年各地に被害をもたらす台風など、自然災害の発生しやすい地域が多く、災害時においては、消防、警察、海上保安庁、自衛隊等の諸機関や地域の人々、ボランティアなどが連携して対応していることなどに触れること」を明記したことでございます。地理の学習は、生徒自身が「身近な地域の調査活動」を通して、社会参画の視点から調べ学習に積極的に取り組むことが重視されております。「自ら調べて考える学習がしやすい構成になっているか」といったことも視点の一つとして考慮し、ご審議いただければと考えます。地理的分野の現在使用している教科書は「東京書籍株式会社」でございます。全4者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。では、委員の皆さん、何かございましたらお願いします。阿部委員、どうぞ。

阿部委員 私から、地理の教科書について意見を申し上げたいと思います。中学校の教科書になりますと、小学校の場合と比べ、考え方が体系的になります。また、いろいろな難しい言葉や情報も格段に増えるようです。子供たちが、日本というのはどういう国なのか、自分たちはどういう地域に住んでいるのかということ、具体的な資料やデータから体系的に考察するということが、子供たちが地理に関心を持ち、苦手意識が起きないようにわかりやすい内容という観点から考える必要があると思います。墨田区の学習調査では、世界の諸地域や日本の地域構成の分野に課題があって、地図やグラフなどの資料を活用する能力の向上が必要だと指摘されています。地理は、単に暗記するだけでなく、地図あるいは資料を駆使して、日本や世界のいろいろな文化や産業、あるいは現時点の日本や世界にいろいろな起る事象について、ダイナミックに勉強していくということをお子供たちにわかってもらいたいと思っています。そういう上で、写真とか資料を使いながら問題解決型の学習をして、子供たちが活発な討論や発表ができるように工夫されているかという観点から、4社の教科書を検討いたしました。4社は、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版です。それぞれの分野で取り上げる題材などについては若干違いがあるようですが、各社とも問題解決型ということで、概ね見開き1ペー

ジに1つの項目を設定して説明をしています。全般的に見ますと、掲載されている写真とか図版、グラフなどは、帝国書院がその中では一番鮮明で、大きな図が載っているように思いますけれども、おしなべて各社ともいろいろな写真とか図版を多く載せており、特に甲乙をつけがたいと判断しました。地理に関してはいろいろな個別の問題がありますが、その中で、特に5つの項目について意見を述べたいと思います。その5つといいますのは、一つは領土・領海に関する取り扱い、2番目に地震や災害の問題をどう扱っているか、3番目に資源・エネルギーの問題をどう扱っているか、それから4番目に身近な地域の調査についてどのような場所を扱っているか、最後5番目に墨田区に関連しているテーマや素材をどのように扱っているか、この5つの点から検討をしてみました。まず、1番目の領土・領海に関する扱いですが、これはいずれの出版社も地理的な側面から詳しく扱っています。その中で、まず東京書籍は132ページに見開きで、日本の領域の特色を見てみようということで、地図とか写真が載っています。さらに134ページでは、地理的な観点から、竹島とか北方領土あるいは尖閣の地図等を載せて、詳しく説明をしています。ただ、若干歴史的な経過については説明が薄いように思いました。教育出版は128ページにあります。これも見開きで、日本の国土の広がりということで、128ページから131ページにまたがって詳細な説明がなされています。帝国書院については124ページから127ページに説明があります。これもかなり詳しく載っていますが、さすがに地図の出版をされているということから、126ページを見ると、北方領土に関する歴史的な経過について時代を追って地図の上に帰属未定ということまで表示されていますので、その後の歴史や公民の勉強のときに、非常に参考になると思いました。日本文教出版については116ページで扱っていて、これもかなり詳しく述べておりますので、各社とも領土・領海の問題については相当詳しく扱っていると思います。2番目に、地震や災害の問題の扱い方であります。墨田区は下町ということで、災害の影響を受けやすい地域でありますから、防災教育には関心を持ってもらう必要があると思います。この問題については、どの教科書も比較的ページを割いて説明をしていますが、その中で詳しいのは東京書籍と帝国書院であろうと思います。例えば東京書籍は152ページに自然災害と防災への取組ということで、155ページまで、地震とか津波とかを含めて詳しく説明がなされています。教育出版も同じように述べておりますし、帝国書院も144ページ、日本文教出版は144ページ等で詳しく述べています。東京書籍は比較的その中でも説明が詳しいと思います。3番目に、資源・エネルギーの問題の扱いですが、資源に関して日本は輸入国ということで、これからいろいろな課題が多く出てくるかと思いますが、そういう面で資源やエネルギーについて子供たちに学んでいただきたいと思っています。この点に関しても詳しいのが東京書籍であろうと思います。162ページを見ますと、日本の資源・エネルギーと環境問題というところ、あと170ページにもさまざまな発電方法の特徴と課題ということで、エネルギー問題について触れています。例えば162ページで最近新聞等に載っているように、メタンハイドレートが日本の新しい資源として注目されるようになってきましたが、それをいち早く写真等を入れて載せているので、非常に子供たちにとっても関心が湧く問題だろうと思います。それから、4番目の身近な地域の調査ということですが、これは、地理の勉強をした終盤のところで、今までの地理の勉強を踏まえて、自分の身近な地域をいろいろ調べてみるという学習の課題があります。できるだけ自分の身近な地域に近い題材を扱っているのが望ましいと思いますが、ちなみに東京書籍は静岡市、教育出版は名古屋市を扱っています。帝国書院は練馬区、日本文教は愛知県小牧市ということで、関東の地域を考えると、あまり関西方面の題材だと地理的な要素が違う面もあるので、望ましくないのではないかと考えました。最後に、墨田区との関わりですが、こ

れについては、いずれの教科書もスカイツリーについて、写真だけのものもあり、説明のあるものもありますが、いずれもスカイツリーを取り上げています。以上のような観点からいろいろな点を考慮しますと、やはり東京書籍が幾つかすぐれている点が多いのと、全体的にバランスがとれているように思いますし、またわかりやすい教科書ではないかと思われるので、東京書籍が一番この中では良いと結論づけました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さんのご意見をお願いいたします。どうぞ、雁部委員。

雁部委員 私も、結果から申し上げますと、東京書籍が良いと思います。例を挙げていきますが、東京書籍5ページ、各章の初めに、上段ですが小学校で習った語句が並べてありまして、小学校からの関連づけをしているということで、21ページに、同じように上段に語句があって、下に写真がありますが、この1課は、1課の語句は写真と関連づけていて、振り返りができるようにしてあるところが非常に良いと思いました。24ページから34ページですが、各国の気温と降水量が載っております。ここでは、東京の気温と降水量と並べて示してあります。その他の章でも随所に掲載されていると思います。ここは、教育出版、帝国書院も同じです。49ページ、53ページにもありますが、地理のスキルアップというところで、グラフの読み取り方を説明しているのがとてもわかりやすいと思います。148、149ページには地形図と等高線の読み取り方が2ページにわたって詳しく書いてありますので、こちらが良いと思います。227ページはスカイツリーが載っております。墨田区のシンボルが載るということは大変うれしいことでございます。領土については、領域・領土についての表現も適切だと思います。そのほか、各章ごとに学習のまとめがあり、問題の構成もよく、取り組みやすい内容となっております。本文の中で注釈の番号と、載っている写真、地図、グラフ等の関係がわかりやすく、視覚的に理解できると思いました。生徒の興味を引くような工夫がされているということで、東京書籍をお薦めしたいと思います。あと、ほかは簡単に説明しますが、教育出版は、こちら東京書籍と似ていて、写真、地図、グラフ等を有効に活用していると思います。本文の字が大変大きくて見やすい。それから、教育出版の121ページから124ページの折り込みに、宇宙から捉えた地球ということで、この写真は、日本列島の写真が大変インパクトがあって良いと思います。128ページから131ページの領土、領域・領土問題についての記述も適切だと思われます。130ページの北方領土に関するところで、絵ではなく年表を使って説明しております。各学習のまとめと表現で、名称を書き込めるようになっていて、知識・理解の定着を図っております。57ページは宗教問題等を詳しく取り上げております。帝国書院ですが、全体的に写真が大きく見やすいので、大変インパクトがあります。気温・降水量グラフは、東京書籍、教育出版と同じように掲載しております。帝国書院の140ページ、地形図の使い方については、こちらはシンプルで大変わかりやすく説明してあるので良いと思います。各学習を振り返ろうでは、空白の穴埋め問題だけではなく、記述式が多いのも思考力・表現力を養うのに良いと思いました。こちら領域・領土問題についての記述は適切だと思います。日本文教出版ですが、全体的にシンプルで、そつなくまとまっていると思いました。学習のまとめで、思考力・表現力を身につけるための問題を多用しているところが良いと思います。巻末に、日本無形文化遺産、世界遺産の写真を掲載しております。こちら領域・領土問題の記述に関しては適切であると思いました。全体的なバランスを考えて、東京書籍が良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかに。坂根委員、どうぞ。

坂根委員 今、皆様が取り上げた視点以外のことも交えて申し上げます。まず、領土問題に関しましては、全般的にどの社も適切な表現だと思います。1つ、帝国書院は126ページの北方領土の地図のところで、日露通好条約、樺太・千島交換、ポーツマス条約、サンフランシスコ平和条約と、条約の流れに従って、歴史的な経緯も含めて書いてあります。サンフランシスコ平和条約では樺太・千島は放棄、北方4島は含まれずという形です。それから、日本文教出版は、竹島のことに関して、韓国に対して、この問題を国際司法裁判所で取り上げるように提案していますが、韓国は拒否しているとなっています。国際司法裁判所という言葉が書いてあります。119ページです。もう一つの視点は、現在、私たちの身近にいる外国人についての記述です。日本在住の、例えば中国系の人、一般的に華人と東アジア・東南アジアの文化圏で言われています。かつては華僑という言い方をされていた人たちです。4,000万人いると言われますが、はっきりした統計がありませんので、実数は把握できません。しかし、かなりの数いることは確かです。それについての記述があるのは東京書籍だけです。47ページの東アジアの文化の所に書いてあります。それから、用語の解説ですが、290ページに詳しくあります。帝国書院も42ページ、華人と呼ばれる中国系の人々と書いてあります。次に台湾についての記述です。東京書籍が48、49、59、167ページにあります。写真も44ページにあります。教育出版と日本文教出版は、見当たりませんでした。帝国書院は裏表紙に、台湾で使われている高速鉄道の車両があります。これは日本の新幹線をモデルにして日本が受注したものです。このように親日的な人々の多い近隣の地域のことを取り上げることは必要ではないかと思います。そのほか、日系人に対する記述、これはどの社も取り上げています。例えば日本での日系社会について、東京書籍では大泉町のこと、教育出版は多文化共生ということで浜松市、帝国書院はブラジルに渡った日系人というような形、それから多文化共生、大泉町。日本文教出版は、移民でつながるブラジルと日本ですね。そのほかに、用語として、ヒスパニックという形、用語が書いてあるかどうかと言う点にも注目しました。東京書籍が91ページに書いてあります。気になりますのは、ヒスパニックの説明のところに、「アフリカ系（黒人）やヒスパニックなどの収入の少ない人々が住むスラムが形成され治安も悪化しました。」とあります。このヒスパニックの説明だと、「ヒスパニック＝治安が悪い」と誤解するのではないかと思います。帝国書院には、「世界中から移民が集まるUSA」と適切な表現があると考えます。このように全体的な面で、東京書籍は用語・事項の説明と索引が充実していることも推薦する一つの理由です。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。教育長、どうぞ。

教育長 4社各社の構成・内容に大きな違いはないように思いますが、区の学習状況調査からは、社会科全般に大きな課題があることがわかっています。中でも資料活用能力など、基礎・基本となる技能、知識が十分身につけていないことが考えられます。したがって、地図やグラフ等の資料を丹念に読み取る機会を積極的に持っていくことが重要であると考えます。まず、そうしたことから、他社でもいろいろ工夫をされていますが、東京書籍では地図やグラフの調べ方や読み方、読み解くポイント等を多く掲載している点、例えば具体的に、地理スキルアップという項目が全章にわたってありますが、こうしたこと、また、グラフ等によるデータが多用されている点から、比較相対した中では東京書籍が良いと考えています。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も東京書籍で良いと思います。お話が出なかったところでいうと、東京書籍41ページです。イスラムの話が出ておりまして、今イスラミックステートではないですが、イスラム教に対して誤解をしている人たちもたくさんいるかもしれないということで、知

識を子供たちが見る上では、他社に比べて、イスラムについては丁寧に扱っているのではないかと思います。ただ、他社と違っている点ですが、旧国名に触れていないです。旧国名というのは、関東でいうと武蔵の国とか下総の国とか。鉄道名だとか新聞の名前だとか、旧国名は結構身近にあるはずなので、そういうことにも触れられると良いと思いました。他社は、程度の違いはありますけれども、一応触れてはおります。それでは、皆様のご意見を集約してみますと、東京書籍でいいのではないかとありますが、「社会（地理的分野）」の教科書は、東京書籍株式会社を採択することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

横井委員長 それでは、「社会（地理的分野）」の教科書は東京書籍株式会社を採択することといたします。それでは引き続きまして「社会（歴史的分野）」について審議いたします。指導室長、ご説明お願いいたします。

【社会（歴史的分野）】

指導室長 それでは、歴史的分野の目標ですが、「我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てること、歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する態度を育てること、我が国と諸外国の歴史や文化が、相互に深くかかわっていることを考えさせること、そして、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高め、資料を活用して多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること。」となっております。次に学習指導要領解説の改訂ですが、「領土に関する教育の充実について」は、「明治期に我が国が国際法上正当な根拠に基づき竹島、尖閣諸島を正式に領土に編入した経緯に触れることを明記したこと。」でございます。学習指導要領上のポイントとしましては、1つ目が、「我が国の歴史の大きな流れ」の背景となる世界の歴史の扱いを充実する。2つ目として、伝統や文化の特色の理解につながる学習を一層重視する」といったことが挙げられています。現在、社会歴史的分野の使用している教科書は「株式会社帝国書院」でございます。全8者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様、ご意見がありましたら、どうぞ。はい、阿部委員。

阿部委員 歴史に関して意見を申し上げたいと思います。学習指導要領の解説書を拝見しますと、歴史的分野の要点としましては5つの項目が挙げられています。一つは我が国の歴史の大きな流れを理解する。2番目に歴史についての考察力や説明力の育成を図る。3番目に近現代の学習を重視する。4番目にさまざまな伝統的な文化の学習をする。5番目に我が国の歴史の背景となる世界の歴史を充実させる。この5つの項目が挙げられていたと思います。いずれの教科書、8社あるわけですが、それぞれの時代に取り上げるべき歴史的な事象については網羅されていると思います。このような観点から、どの教科書が一番わかりやすいだろうかというようなことから、いろいろ検討してまいりました。個人的なことですが、私の経験からすると、今の年齢になりますと、歴史の勉強というのはこれ以上おもしろい学問はないのではないと思うぐらいに好きな勉強の一つですが、やはり学生時代を思い返しますと、試験に出るような事件や年代を一生懸命暗記することに時間を割かれて、歴史についてはあまりおもしろいと思った経験がなかったわけです。そこで、歴史については、いろいろな歴史的な事象がどのような原因で起こったのか、その背景にどんなことがあって、どんな必然性があったのか、そして、それが結局、現在のいろいろな事象につながっているということから、これが

ら起きるべき出来事についても、たくさんのヒントがそこに埋もれているんだということが、だんだん年をとってくるとわかるようになってきますので、ぜひ子供たちにも歴史のおもしろさをわかって好きになってもらいたいと、こういうことから易しくて問題を深く掘り下げているような教科書はどれだろうかというようなことから、いろいろ検討をいたしました。今回選ぶのは8社、東京書籍、教育出版、清水書院、日本文教出版、帝国書院、育鵬社、自由社、学び舎と多数の書籍がございます。まず、簡単に教科書の外観を見ますと、判が小さいB5判が清水書院と自由社、学び舎は大きさがA4判で一番大きいサイズです。そのほかはA5判、比較的横に広い形の本になっています。中身をざっと拝見すると、やはり清水書院と自由社は判が小さい関係か、写真や図版が小さめなのと、スペースの関係からか、説明が簡素な感じがして、簡略な反面、少し難しいのかなという印象を受けました。歴史を勉強するときに、同じ歴史的な事象についても、立場とか見方によって評価が分かれることがたくさんあります。できるだけバイアスをかけないで、ニュートラルな立場で子供たちに学んでいただきたいと思っています。そこで今回、学校調査の資料とか、教科書調査委員会の資料、あるいは展示会での区民の皆さんのアンケート、東京都の教科書研究資料など、たくさんの資料がございますので、それらを拝見しながらいろんな観点で検討いたしました。その中で主な5つの観点についてピックアップして意見を述べたいと思っています。その5つというのは、一つは神話や伝承・伝統文化をどう扱っているか。2番目に、墨田区にかかわる人物や事象、史跡を勉強することは、身近な歴史を学ぶことになりますので、本区にかかわるいろいろな事象をどう扱っているか。3番目に、近現代の国際関係について、これからいろいろな勉強がだんだん深まっていく方向で検討されているようですので、これをどう扱っているか。4番目に、領土・領海について、歴史的な過程についてどう扱っているか。最後に、2020年にオリンピックがありますので、このオリンピックについて、何か歴史的な検討がなされているか。この5つを特に拾い出して考えてみたいと思います。それで、まず神話や伝承あるいは伝統文化の扱い方ですが、多少この問題については扱い方に濃淡があるように思います。読んでいて教育出版と育鵬社が比較的わかりやすかったと思います。自由社は、かなり詳しく述べていますが、歴史を初めて学ぶ子供たちにとってはスタートラインから余り神話の詳しい内容を説明しても、混乱を来すことがあるのではないかと思います。そのほかは、あまり神話については触れていないのですが、簡単な範囲でいいと思いますけれども、やはり古代の人たちの宗教や価値観がどういうものだったのか、そのことは今の日本のいろいろな文化や歴史のスタートになっているわけですので、神話の意味とか、簡単な粗筋程度は教えておいたほうが良いと思います。その意味では、教育出版あるいは育鵬社は適当な内容であろうと思います。2番目に、墨田区にかかわる人物とか事象についてどう扱われているかを考えてみますと、幾つか特色がありまして、一番本区にかかわる歴史上の人物というのは、勝海舟、葛飾北斎がいますね。この2人をどう扱っているかを見ますと、例えば東京書籍を例にとると、勝海舟の扱いは、159ページに坂本龍馬の写真と説明が載っているのですが、その説明の中に勝海舟という名前が出てくるだけで、独立しては扱われておりません。清水書院については、やはり坂本龍馬の説明の中に出てくるだけです。清水書院の特色は、吉良邸の討ち入りとか、あるいは江戸の賑わいというようなことで、隅田川や木母寺などの説明も出てくるので、その点は墨田区に関連する事項を比較的取り上げている例であります。帝国書院の場合は152ページの左のほうに勝海舟として独立した欄が設けてあり、勝海舟の略歴と、西郷隆盛との会談の絵も載っていますので、比較的詳しく扱っています。日本文教出版では163ページにあります。やはり江戸城無血開城の会談というところで、絵と説明が載っています。自由社については164ページ。な

お、自由社については赤穂浪士の討ち入りは134ページに載っています。育鵬社については、同じく勝海舟については比較的多くのページを割いていて、167ページに江戸城無血開城で詳しく絵と説明が載っています。それから175ページのコラムの中に勝海舟の名前が出てきます。それから177ページに西郷隆盛の説明の中にやはり名前が出てきますので、比較的登場する回数が多い例です。学び舎については、勝海舟の記載は、私の見た限りでは見当たらなかったと思います。それから、3番目の近現代と国際関係の扱い方ですが、これについては、内容や分量について、かなり開きがあるように思います。近現代の学習については、学習指導要領の説明にもありましたように、今後、学習が増やされる傾向にあると思います。この分野については、どの教科書もかなりの写真とか図版を載せて説明しています。ただ、個人的な意見も踏まえて申しますと、第二次世界大戦から敗戦、そして敗戦後の復興の流れを見ると、方向性の大きなものとしては、基本的に一つは東京裁判での歴史観を受け入れつつ、その後の経過を述べているものと、それから、これまでの東京裁判を含めた流れの評価を見直すことを意識したようなものの2つに分かれると思います。後者の立場は、育鵬社と自由社というのがその部類に属するものではないかと思います。そのほかは、前半の立場をとっているのではないかと思います。これから時代の推移とともに、いろいろな昔の情報が公開されるようになってくるとともに、やはり私個人としては、戦争に勝った側と負けた側を分けるような考え方はそろそろ脱却して、世界に向けて認めるものは認め、言うべきことはきちんと行って、歴史をフェアに検証する方向になっていくことになっていくのが望ましいだろうと思います。この意味で特色があるのは、育鵬社は東京裁判やパール判事のこと、あるいはシベリア抑留とか拉致問題、アジアの民族運動など、極めて現代社会に続く歴史的な問題を取り上げているので、歴史に興味を持っている子供たちには非常に関心が高いことを扱っていると思います。ただ、残念ながら、初めて中学になって歴史を学ぶ子供たちにとってはいささか難しい、いきなり難しい問題を取り上げることになるので、恐らく高校になって深めていくような分野ではないかと思いますし、先生方の負担も少し大き過ぎるのではないかと思いますので、その点が育鵬社の場合には問題だろうと思います。続いて4番目に、領土・領海の歴史的経過についてどう取り扱っているかを述べます。領土・領海については、我が国の主張を理解して、ディベートができるような経過の理解をしていただきたいと思っています。この中では、東京書籍と帝国書院については、地図や写真があって、比較的詳しく述べられています。そのほかの教科書については、説明の文章の中では比較的詳しく説明しているものが多いのですが、地図が小さかったり、少なかったりして、少々わかりにくいものが多かったように思います。例えば1つだけ挙げれば、東京書籍252ページにこの問題が載っています。領土をめぐる問題とその歴史ということで、竹島、北方領土、尖閣の経過を、写真を交えて説明しています。帝国書院を例にとれば246ページ。日本の領土と近隣諸国という、ここにもやはり地図とか、歴史的な経過を踏まえた地図、あるいは写真等も同じように詳しく載っています。最後に、オリンピックの関係を申し上げますと、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催がありますし、ちょうど今学ぶ子供たちが成長していく中で大きな国家行事が行われるわけなので、やはり歴史の中でもオリンピックのことを学んでほしいと思います。この関係で情報量が多いと思われるのは教育出版と自由社と育鵬社があります。帝国書院も記載がありましたが、若干少ないです。まとめとしては、情報量が多い、あるいは写真や図版が多くて、全体をわかりやすくバランスよく述べているという点では、どれも大きな遜色はありません。東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版など、いずれもオーソドックスなものだと思います。これと若干対比的なのが、育鵬社と自由社になります。歴史の勉強をしていますと、歴史には光が当

たる部分と影の部分というのはどうしても出てくるわけですが、初めて歴史を学ぶ子供たちにとっては、いきなり影の部分を中心に押し出して反省からスタートするというのは、特に戦後の歴史について学ぶと、おそらく子供たちが、勉強する意欲がなえてしまうのではないかと思います。明るい部分と暗い部分をバランスよく教えながら、私個人の意見ですけれども、間違いを絶えず犯しながらも人類というのは少しずつ良い方向に向かって努力してきているんだといういわゆる自己肯定感がないと、なかなか歴史を勉強しようとする意欲が湧かないのではないかと思います。特に近現代史については、いろいろな意見があるところではあります。今日につながる日本と世界を取り巻く諸問題について、生徒自身がきちんと自分の意見を持って主張できる社会人になってもらいたいと思います。そういう意味では、歴史が好きで、歴史の勉強を深めたいという子供にとっては、私は育鵬社が一番おもしろいのではないかと考えています。ただ、いろんな問題提起がなされているのですが、初めて歴史を学ぶ人にとっては、やはり難し過ぎるかなという懸念がありますし、今までの教科書の流れと方向性が違うところがありますので、教える先生の側でも、どこまで深めてニュートラルな立場で教えたら良いのだろうかということに悩まれる部分が出てくるだろうということで、気がかりな点があります。従って、総合的に考えた場合には、現状でオーソドックスな教科書という観点から考えますと、帝国書院の書籍が、写真や図版がとても多くてわかりやすい。そして、記述も過不足なく、バランスよく述べられているということ。そして実際に歴史を担当している先生方からの推薦もあり、現在使っているということもあって使い慣れているなど、いろいろなことを考えていきますと、消去法的な考え方ではありますが、帝国書院が一番現状ではいいだろうという結論になりました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。雁部委員、どうぞ。

雁部委員 私は、全体的なところから意見を述べたいと思います。結果から申し上げますと、帝国書院が良いと思います。まず、帝国書院は全体的に写真、地図、挿絵も多く、しかも見やすいということで、これは良いと思います。各章の初めに学習課題を明記しております。帝国書院136ページ、学習を振り返ろうというページがありますが、ここは縦書きの年表形式で、しかも、記述方式になっておりまして、時代の流れをつかみやすくなっているのも、大変これはおもしろいと思います。20ページを開いていただくとタイムトラベル。これは92、114、156、202ページとありますが、このタイムトラベルという大きな絵を通して時代の背景がつかみやすくなっておりまして、それぞれ右上に小学校で学んだ主な出来事を掲載してあります。左上には、タイムトラベルの絵を参考に、クイズ形式問題がありまして、そこは問題だけではなくヒントが載っております。ヒントのページも載っていて、わからない場合はこちらのページを調べてくださいということで、今現在、墨田区では図書館を使った調べる学習をやっていますが、こういうことは調べるということが一番大事なので、この調べる学習を促しているというところで、大変良いと思います。教育出版は各章の初めの中段に、題材を取り上げる時事がわかるようにしてあります。また、学習課題も明記してあります。本文は割と大きめの字で、大変見やすいと思います。それから、教育出版の見出しですが、162ページは、ざんぎり頭をたたいてみればという見出しになっています。240ページは、冷たい戦争の始まりということで、冷戦のことを言っているのですが、ただ、見出しのタイトルが非常におもしろいと思いました。巻末の折り込み年表については、どの社よりも見やすいと思いました。東京書籍、こちら教育出版と同じようにですが、下段に年表が表示されていて、見開きの内容年月がわかるようになっております。人物の紹介がここは多いですね。それから、歴史スキルアップ、それから歴史にアクセスのコラムというのがあります。これは充実していて大変良いと思いました。総じて東京書籍は情

報量が多いのが特徴ですが、写真とか資料はてんこ盛り過ぎて、的を絞りにくいと思いました。清水書院は、B5サイズでコンパクトですが、気になったのは、本文の行間がちょっと広いので、これが気になりました。全体的にシンプルな作りとなっておりますけれども、情報量にちょっと乏しいかなと思います。先生が別の資料を作成したり、苦労するかもしれないかなという本だと思いました。日本文教出版は、これも本の左端に年表のタグがついております。章の初めに学習課題もあり、学習の活用では、これも年表形式の問題となっております。ただ、資料が、文字が小さくて読みにくいです。日本文教出版の良いところは106ページ。長篠の戦いの屏風絵が2ページにわたって掲載されておりまして、かなりインパクトがあって、ここで言語活動がしやすくなっているのが良いと思いました。全体的に、世界的視野から歴史を追っているような教科書と感じました。構成は遜色ない作りとなっております。自由社は、ちょっと文献資料が多くて、中学生には難しいと思います。育鵬社も高校以降で学ぶような日本の要素が強くて、これも中学生には難解かなと思います。学び舎は、使用する立場に立つと、単純に本が厚くて大き過ぎるので扱いづらいのと、文章中の重要な語句等に、重要な語句が太字になっていないので、ポイントがつかみにくいと思いました。自由社、育鵬社、学び舎とも、歴史を掘り下げる意味では、大学生あるいは大人が読むものとしてはおもしろい部分はあると思いますが、総じて記述内容に偏りがあって、義務教育で使う本としては余りお薦めできないと思いました。総合的に見て、帝国書院が良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。坂根委員、どうぞ。

坂根委員 はい。私は、皆様の視点以外の二つの視点を付け加えて申し上げたいと思います。一つは、歴史の教科書にあらわれた女性に関してですが、これは東京都や区民の方がご覧になっての意見や統計にもありません。自分で全部調べて表にしてみました。その点、結果から申し上げますと、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版では、かなりの人物を取り上げています。育鵬社は、取り上げた人数は多いのですが、「なでしこ日本史」という囲みのページにコラム形式で書かれており、まとめ方がはっきりしません。例えば、北条政子と静御前と日野富子を3人一緒に取り上げていますが、共通項がわかりにくいです。学び舎は、女性の数だけ多いですが、有名ではない一般の方の名前もたくさんあります。例えば、フランス革命のバステューユ攻撃のときに出た、オランプ・ド・グージュ、この人、私、知りませんでした。私の知識が足りないだけかもしれませんが、そういうことは詳しい一方で、他の教科書で取り上げたものがないものもありました。また例を申し上げます。戦後初の女性国会議員が選ばれたということに関しては、どの社も書いてありますが、自由社だけは見当たりませんでした。清水書院は250ページに、初の国会議員、女性代議士と書いてあります。間違いではないと思いますが、やはり衆議院議員か国会議員という形が適切かと思います。学び舎は文章で書いて、山口シヅエさんの後ろ姿が大きく描いてあります。次に例を言うと、津田梅子と山川捨松の扱いです。それが教育出版では170から171ページ。170ページに、津田梅子と同じく女子留学生の山川捨松のことが大きく書いてあります。右のページにはアイヌの文化を伝えた知里幸恵のことが書いてあります。これは非常に情報量も適当で、また、内容的にも必要十分だと考え、評価できます。全体として女性の取り上げ方は卑弥呼から美空ひばりまでありました。次に、近現代史に関し、領土・領海問題に関連する日本の植民地だった台湾・韓国の記述について申し上げます。この点では、朝鮮半島、韓国の記述は比較的多いですが、台湾の記述についてはどの社も少ないです。その中で、帝国書院は記述が一番多いです。その観点は沖縄、北海道、旧土人保護法から説き起こし、植民地の台湾、朝鮮につなげて書いてあります。そして、戦後の日本との関係まで一貫して続けて書いてあり、

情報量として適切だと帝国書院を評価します。また自由社では用語の説明として、日本語の「国際連合」は、同じ漢字を使う中国語では「連合国」と言うとなっています。つまり、ユナイテッド・ネーションズの英語をそのまま訳しているのです。日本語の「国際」という言葉は原語にはなく、成立過程からも「連合国」と訳するのが妥当ですが、それはなかなか知られていないことで、その辺を示しています。また植民地朝鮮で行われた創氏改名の「創氏」とは何かという意味も書いてあります。学び舎は、単元のタイトルがキャッチフレーズとしては面白いのですが、事象の取り上げ方が詳しすぎたり、部分的だったりしています。例えば自由民権運動に関して言うと、野津田村、現在の町田市で起こったことと人物を中心に取り上げている点などです。また日本文教出版は、サンフランシスコ平和条約についてこの条約に調印しなかった国について詳しく書いてあり、その点、評価したいと思います。私の結論としては、情報量などについて、帝国書院が一番良いかと思います。最後に申し上げますが、植民地時代の台湾の記述で、八田與一という烏山頭ダム建設に尽力した人のことが、各社とも、書いていないところがありますが、そのことについても触れています。これはぜひ書いていただきたいです。また帝国書院の場合は最後の人物索引に振り仮名がつけてあって読みやすいです。地名・人名の読みには特殊なものがありますから振り仮名は必要です。索引も良くできているし、資料の出典がはっきりしています。細かい点ですが、使われている風刺画はこの美術館からとったということも明記してあります。これで終わります。

横井委員長 教育長、どうぞ。

教育長 歴史的分野の教科ではさまざまな角度があると思います。私は、そうした中で、歴史における諸事象の意味や意義、事象間や地域間の関連なども追求して、深く理解して、生徒が自分の言葉で表現する学習が大事だと考えています。そうしたことを重視する教科用図書が望ましいと思います。そうした中で、あくまでも各社との比較相対の中では、私は帝国書院本が良いと考えています。その主な理由としては、先ほど雁部委員からありましたけれども、例えば時代ごとにタイムトラベルという項目で過去の時代への興味・関心を引く工夫を行って、章末で学習を振り返ろうという項目では、このタイムトラベルとも関連させて、各時代の特色等を他の地域、これは朝鮮・中国ですけれども、との関係や前後の歴史的事象などを学ばせながら考え、説明させるよう動機づけている点が非常に良いと考えます。また、国際化が進む中で、260、261ページですけれども、明確に国際社会におけるこれからの日本という表題で、日本の国際社会における役割像が具体的な事例を通して記載されている点も非常に良いと思います。こうした点から、私も帝国書院を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私の私見を述べさせていただいて、結論を出したいと思います。私は育鵬社を推薦したいです。いろいろお話ししたいことたくさんありますけれども、阿部委員のおっしゃっていただいたこととも重複しますし、時間もありませんので、簡単に2つだけお話しします。育鵬社119ページ、真ん中に島原・天草一揆と鎖国というところがありますが、島原の乱については各社全部取り上げておりますが、10行目に「この事件の後、幕府は領主を処罰するとともに絵踏みの徹底などにより」と書いてあります。領主は、ご承知の方もいると思いますけれども、松倉勝家という人で、悪政だったわけですね。一揆を起こされて、この人は処罰されたんですね。ところが、自由社は欄外の注に書いてあります、責任を追及し江戸に送られて処刑されたということが書かれています。他社はみんな書いていないです。だけど、実は非常に重要なことで、その後200年もの間、大きな混乱がなかったのは、このときの対応の仕方が良かったことと、それから、為政者側が反省をして、市民を苦しめたらだめだということがわかったからだということになるので、非常に重要

なことです。意識して取り上げていないのだとしたら、私は他社に問題があるだろうと思います。もう一つは、215ページの一番下のコラムに、幻の人種平等案というのがありますけれども、パリ講和会議、第一次世界大戦の後のパリ講和会議で、人種差別撤廃の提案をしたのですが、多数決でこれは否決されているんですね。これも、この社と自由社だけが取り上げておまして、他社は取り上げておりません。ですから、日本が反省しなければいけないという考え方は多くあるだろうと思いますが、それだけではないということをお子たちに教えないと、これから国際社会に出ていく子供たちにとっても望ましいことではないと思います。これは神話の問題とも絡むのですけれども、自分の国について偏らない知識を持つ必要があると思います。神話の部分でも、これは初めから「古事記」は神話だという前提で話が進んでいるようなことがありますけれども、本当にそうなのかどうかということ、それも含めて批判的に見る目を持つことが本当は歴史教育では重要なことなのではないかと思いますが、大勢は帝国書院のようなので。

阿部委員 若干難しいかなと。私もなかなか意欲的な取り組みだとは思いますが、初めて歴史を学ぶ子供にとっては、余りにもたくさん問題を提起するので、やっぱり高校レベルの問題もあるのかなと。ちょっとそこが育鵬社の場合は気になったところです。

横井委員長 これは歴史教育の問題になりますので、また改めて検討することにいたしまして、採択の上では帝国書院ということで、「社会（歴史的分野）」の教科書は「株式会社帝国書院」を採択することとしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

（「異議なし」の声あり）

横井委員長 それでは、「社会（歴史的分野）」の教科書は「株式会社帝国書院」を採択することといたします。引き続きまして「社会（公民的分野）」について審議をいたします。指導室長、ご説明お願いいたします。

【社会（公民的分野）】

指導室長 公民的分野の目標ですが、「個人の尊厳と人権の尊重の意義、民主主義に関する理解を深め、国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培うこと、民主政治の意義や経済活動、現代の社会生活などについて自ら考えようとする態度を育てること、各国及び各国民の協力の重要性と、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させること、現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てること。」などが挙げられています。次に学習指導要領解説の改訂ですが、「領土に関する教育の充実について」は、「北方領土や竹島に関し未解決の問題が残されていることや、現状に至る経緯、我が国が正当に主張している立場、我が国が平和的な手段による解決に向けて努力していることを理解させること」と「尖閣諸島については、現状に至る経緯、我が国の正当な立場、解決すべき領有権の問題は存在していないことを理解させること」の2点を明記したことでございます。学習指導要領では、一つ目として、現代社会における文化の意義や影響についての理解・見方や考え方の重視。二つ目は、我が国の伝統や文化に関心をもち、三つ目は、よりよい社会の形成に主体的に臨む態度の形成の重視がポイントとして挙げられています。なお、選挙権に関する記載については、見本本では20歳以上となっておりますが、先の国会で18歳以上と引き下げられたことから、生徒の配布する教科書については、18歳以上に引き下げられて分かるように修正されるとのことです。現在、公民的分野で使用している教科書は「教育出

版株式会社」でございます。全7者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。では、どうぞ、阿部委員。

阿部委員 引き続き、私から意見を申し上げたいと思います。公民的分野に関しましては、結論から先に申しますと、教育出版を推したいと思っています。東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社から発行されているものです。各社の教科書とも指導要領に求められている基本的な内容が網羅されており、それぞれ遜色がないと思いますが、多少、教科書によって情報量、写真、図版の多い少ない、あるいはそれぞれの分野で取り上げている問題についての力点の置き方が多少違うということがあるように思います。公民に関しては、中学生として、これから社会人になっていく過程として、世の中の基本的な仕組みやルールを学ぶことになるわけです。子供たちにとっては初めて学ぶことが多いと思います。それで、法律や経済の考え方とか用語が登場してきますので、いきなり難しい内容あるいは言葉を覚えようとすると、混乱したり苦手意識を持ってしまわないかということが気がかりになります。そこで、まず今の社会を支えている基本的な制度とかルールをまず学び、どうしてそういう制度やルールができているのか、それにはどのような価値観や考え方がその背景にあるのかということがわかれば、現在起きているいろいろな問題が、どこにその根っこがあるのかということがわかる、要するに絵解きができるというような学習が望ましいと思っています。そうすれば、日々新聞やテレビとかのニュースで話題になる政治や経済あるいは国際的な事象についても、子供たちが自ら関心を持っていろいろ調べたり、あるいは意見を発表したり、みんなで討議して意見交換をしながら自分の考えをまとめていくトレーニングができるのではないかと思います。そういう意味では、公民についても、できるだけわかりやすく、子供たちが理解できるような内容になっているかを検討したいと思います。まず、全般的な特色ですが、学習指導要領に従ってどの教科書も最初に現代社会の基本的な考え方とかシステムについて学習するという導入部分がありまして、その次に憲法に入り、個人の尊重、それから国民主権や政治制度、さらに暮らしと経済ということで、経済を学びます。最後に国際社会と日本ということで、いろいろな課題について学習するような振り分けになっています。これはどの教科書も同じような構成になっています。外観的なことですが、サイズが大きいものと小さいものがありまして、清水書院と自由社はB5判で、若干判が小さいものです。それから、その他のものはA B判で、横に少し広いサイズになっています。やはりサイズの関係もあると思いますが、自由社と清水書院は情報量が少ないのと、載っている写真やイラストあるいは図が小さめなので、その点インパクトに欠けるのではないかと思います。それから、個々の問題に入ってみたいと思いますが、個人の権利と憲法分野について、それぞれどう扱われているかを考えてみたいと思います。この分野について、私が見る限りでは教育出版は非常にバランスがとれていると思います。比較的自衛隊とか安全保障の問題についても丁寧に述べられております。また、この点に関して、日本文教出版も説明が比較的わかりやすいように思いますし、バリアフリーとか、あるいはネット問題などについてのタイムリーな問題を取り上げているのが良いと思います。そのほかは説明が平板的といいたいでしょうか、印象を受ける部分はありますが、いずれも特別何か問題があるということは見受けられませんでした。1つ気になった点としましては、帝国書院の説明の仕方が、憲法の国民主権の分野で、その一環として国会や政治制度、三権分立などを説明しているのですが、教え方としてやはり憲法の理念というか考え方と、それから制度としての政治、行政・立法・司法の機能を分けて教えたほうがわかりやすいという印象を持ちました。そのほか、いろいろ各社とも特色はありますが、先ほど歴史でも話題になりましたけれども、自由社と育鵬社については、

公民で憲法の平和主義や安全保障、あるいは憲法第9条の意見の対立などについて、かなり深く掘り下げて述べられている点は評価できるわけですが、やはり公民を初めて学ぶ子供にとって、いきなりそこまで問題意識を持って学習するのはやや負担で、少し難しいのではないかと気がになりました。2番目に、国民主権と政治制度については、それぞれ各社ともイラストとか図版を使って、わかりやすく説明しているものが多いです。ただ具体的な制度やいろんな用語が登場しますので、わかりやすさという観点から見ると、やはり教育出版が良いのではないかと思います。私の個人的な意見としては、教育出版で97ページを見ると右のほうに裁判官の女性の法服が載っているのですが、他社は男性の裁判官と女性の裁判官、並べて写っているのが多いので、できれば男女両方の写真を入れていただけたらなと思いました。次に、もう1点気になった点としては、帝国書院の書籍が、子供たちがおそらく公民を学ぶときに、新聞をいろいろ参照したり勉強することになると思いますが、この点で帝国書院に関してだけ、朝日新聞、読売新聞とかの新聞の銘柄の出典を明示している特色があります。その点の趣旨はわかるのですが、ただ帝国書院については、例えば64ページを見ると、左のほうに朝日新聞ということが表題からわかる全部のページが出ています。それから65ページの右上に朝日新聞社説ということが明示されています。他にも65ページの下のほうにも朝日新聞とありますし、73ページにも右上の、虐待された子、保護に前進というところに、朝日新聞の記事を掲載しています。74ページにも、首相の動静ということで、朝日新聞という明示がなされています。ほかの銘柄の新聞も幾つかほかのところで扱っているのですが、比較的、朝日新聞という銘柄を主に扱っていますので、何となく子供たちに朝日新聞を読むようにバイアスがかかっているようなニュアンスがあるのではないかなと。ここはバランスよく採用するか、他の教科書のように銘柄の明示はしないほうがいいのかと、これは個人的な印象ですがそう思いました。本論に戻しますと、次に暮らしと経済については、これはなかなか難しい分野で、それぞれ各社ともいろんな工夫をしてわかりやすく説明しているので、甲乙つけがたい内容だと思います。それから、最後に国際社会と日本の分野については、領土・領海と主権をどう尊重するか、国旗と国歌の意義をどう教えるか、国連の働きなどをどう扱っているかですが、これらについてはそれぞれの出版社で取り扱いに濃い薄いがあるように思いました。領土・領海、あるいは国旗・国歌については、帝国書院、自由社、育鵬社がかなり詳しく説明をしています。そのほか、日本と国連の関係、拉致問題や国際人権の課題の点についても、それぞれ各社取り上げているようです。この中で、育鵬社の本は、TPPとかWTO、FTAなどという経済問題についても取り上げているのと、それから東日本大震災とそれに対する世界からの支援、オリンピックやパラリンピックなどについてもたくさん取り上げているので、なかなか魅力的な教材ではないかという印象を受けました。そのほかについては、資源・エネルギーの問題についても、結構それぞれ扱っていますが、中には先ほど触れたメタンハイドレード等の新しいエネルギー問題についても、触れているものと触れていないものがありましたので、できれば取り上げてもらいたいと思いました。これらを総合いたしまして、私の判断としては、教育出版か育鵬社のいずれかということになりました。やはり勉強をして公民に興味を持ってくれる生徒にとっては多分、育鵬社はいろいろな新しい問題にも触れているので、興味がどんどん湧くのかなと思いますけれども、平均的なレベルといたしましよ、ごく普通の場合を想定すると、墨田区の場合には内容的に難しさがあると思いますので、総合的に考えると、教育出版の方がより適しているのではないかと思います。特に説明がわかりやすいという点、先生方の推薦もあることを考えると、教育出版という結論になりました。ただ若干つけ加えますと、教育出版に関しては、国際人権の課題とか、あるいは資源・エネルギーの問

題、オリンピックやパラリンピックについてはあまり触れられていないので、この3つの分野についてはぜひ授業で補っていただきたいということをつけ加えて、教育出版ということにしたいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。坂根委員。

坂根委員 ただいま阿部委員から全体の説明がありましたけれども、私は別の視点をつけ加えたいと思います。一つは民主主義の基本的な理解、これは導入の仕方から始まって考えたいです。もう一つは現代社会の社会的事象、特に新しい事象に関する項目がどのくらい入っているかという点です。結論から申し上げますと、第1に教育出版、第2に日本文教出版を推薦したいと思います。教育出版は、巻末の用語解説、欧文略称が結構充実しています。まず民主主義の理解ということについて申し上げます。民主主義と多数決ということは、一番基本的な概念ですけれども、それについてどういうふうに書いてあるかと申しますと、教育出版は74ページ、75ページに政治とは何だろうという視点で、文章で、直接民主制、間接民主制、議会制民主主義と順を追って、整理しながら書いてあります。原文を少し読みます。「そこで、最終的な決定の方法として多数決の原理がとられています。全ての人々が平等であることから出発すると、この方法が最も妥当で、より多くの人々が納得する方法だからです。多数決での決定の前には、少数意見の人でも最終的には決定には従う必要があります。」この書き方は、学習者、子供たちにとっては非常にわかりやすいと考えます。他社のものもこの部分は全部調べましたが、時間がありませんので省略します。次に日本国憲法ですが、これは、原文は歴史的仮名遣いで書かれています。そのため、下に現代仮名遣いが書かれています。例えば「誓ふ」と書いて「誓う」、「やうやく」が「ようやく」とかです。ほとんどの教科書がこの形で原文に忠実です。また、用語の解説も書いてあります。東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版、これは全部書いてありますが、自由社は歴史的仮名遣いだけ、育鵬社もそうですね。自由社は用語解説がないので理解するのが難しいと考えます。もう一つの観点の社会的事象では、男女共同参画、男女平等、このことについてどのくらい書いてあるかを中心に調べてみました。東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版はほとんど網羅してあります。例えば男女共同参画基本法について、女子差別撤廃条約から男女雇用機会均等法を経てできたということも書いてあります。それからワーク・ライフ・バランス、また、労働の分野にセクハラという用語も書いてあります。教育出版はワークシェアリングということも書いてあります。1つ注目していただきたいのは、日本文教出版49ページ、平等権のところに「男女共同参画社会を目指して」というのがあります。ここで「日本では管理職や専門職につく女性の割合や女性議員の数など、国や地方公共団体の政策決定にかかわる女性の割合は世界的に見ても著しく低い水準にとどまり、改善が求められている」となっています。他社もいろいろな表現で書いてありますが、一番はっきりしているのは日本文教出版だと思います。そのほかにも、ノーマライゼーションとか、クレジットカードの自己破産、クーリングオフ、男女格差が少ない国の記述などがあります。それは各社にあり大変盛りだくさんで、このような現代事象や用語について勉強するということは、これからの社会生活に大切ではないかと考えます。

横井委員長 雁部委員さん、どうぞ。

雁部委員 公民については、私も教育出版をお薦めしたいと思います。まず、教育出版の巻頭の3、4ページで、公民の学習を始めるに当たってはということで、学習の目的を明記していて、とてもわかりやすいと思います。6ページは、公民にアプローチということで、ここは身近な新聞を取り上げて、大変導入しやすいと思います。22ページはスカイツリーの建築の知恵が載っております。26

ページ、29ページは、社会で生きていく上でのルールを取り扱っておりまして、大変良いと思います。36ページから日本国憲法、選挙、あるいは政治について詳しく述べられております。207ページの終章で、「私たちにできること」というところで、未来への希望を持たせるような記述が書いてあるのはとても良いと思いました。各章の学習のまとめと表現は、振り返って整理できるよう、大変わかりやすくなっていると思います。「読んで深く考えよう」というコラムでは、タイトルの下に問題提起があって、進めやすくなっていると思います。次に、東京書籍ですが、色分けもきれいで、レイアウトも適切で、見やすいと思います。地理、歴史同様、公民にアクセス、チャレンジのコラムが大変充実しております。教育出版同様、24ページから31ページについては、社会で守るべきルール、あるいはトラブルについて取り扱っております。全体的にバランスのよい構成となっていて、とても良いと思いますが、やはり情報量が多くて、消化し切れるかどうか、ちょっと不安に思います。帝国書院は、これも地理、歴史と同じようなレイアウトで、第3部、103ページの私たちと経済活動の章は、企業を通して経済を考えるというところから、納税者として経済を考えるといったようなことを取り上げていて、現実にも即した話題、内容を取り上げ、社会人になってからの実生活で役立つようなことを網羅していて、大変良いと思います。日本文教出版ですが、1ページから、現代社会から始まっているので、導入はしやすいと思います。阿部委員からもご指摘がありました、48ページのバリアフリーの社会についても取り上げております。おもしろいなと思ったのは、168ページの年金についてのシミュレーションがありまして、これは子供たちの将来を考える上で大事なことだと思いました。111ページのコラムで、少年法の説明があるのは良いと思います。清水書院、自由社とも、大変シンプルになっておりますが、情報量が少ないように思います。デジタル時代になれた子供たちには、少し物足りないかなと思いました。自由社は、領域について巻末に明記しておりまして、大変良いと思います。育鵬社は、57ページ、憲法9条、あるいは集団的自衛権に触れております。ただ、部分的に良い内容のところもありますが、全体的なバランスを考えますと、レイアウトが統一して見やすいということで、子供たちに理解しやすいと思う教育出版をお薦めいたします。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。はい、坂根委員。

坂根委員 1つだけ申し上げます。今の雁部委員の、日本文教出版の年金シミュレーションのところですが、これは現在の社会経済状態、収入などが変わらない場合と仮定してあります。しかしながら、子供たちの将来がこうである可能性は非常に少ないと思います。この導入の仕方と視点自体は良いのですが、記述内容に疑問を感じました。以上です。

横井委員長 はい、教育長。

教育長 社会科の公民的分野の学習指導要領改訂のポイントの一つに、習得した概念を活用して諸事象の意義を解釈させたり事象間の関連を説明させること、自分の考えを論述させたり、議論などを通してお互いの考えを深めさせたりすることを重視するとあります。そうした観点から見ると、私は、教育出版、帝国書院、日本文教出版の3社に絞られるのではないかと考えます。まず、教育出版ですけれども、各章ごとに、例えば30ページですけれども、言葉で伝え合おうという項目は、そのような意図で企画されているように思います。次に、帝国書院では、各所に、26ページですけれども、トライアルの項目を設け、同様に考えさせ、議論させる内容となっております。また、日本文教出版では、12ページですけれども、情報スキルアップとチャレンジ公民、72ページですけれども、この2つの項目で情報の読み方や処理、そして議論の進め方などをわかりやすく掲載しています。3社とも、今の子供たちに必要な言語能力の向上にとり必要な、例えばディベートなどの議論を深める工

夫をしていると思いますが、とりわけ教育出版本では、各章の最後に言葉で伝え合おうというコーナーで、情報の入手と活用から始まり、ディベート、シミュレーション、プレゼンテーションなどからレポートの作成で終わるまで、改訂のポイントに沿った形で、かなり系統的に構成されていると思いますので、私も教育出版本を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も私見を述べさせていただきますが、教育出版でもいいのですが、問題は、教育出版41ページに、象徴としての天皇の話が載っておりまして、憲法の話ですが、憲法を守るということは非常に重要なことですから理解をしておく必要がありますが、憲法は、補則も含めて11章ありますが、そのうち第1章、天皇ですね。なぜ天皇が日本の国民の、国民統合の象徴なのかということが、義務教育期間、どこでも教わらないです。象徴であるということは教わるけれども、なぜ天皇かということがわからない。例えば教育出版の35ページ見ると、上の絵で、人の支配というのがあって、王様がいて、法があって、国民を支配するということになっているけれども、専制君主はこういうことになりますけれども、天皇がこういう立場であったことはほとんどないですよ。それにもかかわらず、なぜずっと、それこそ神話の時代から天皇がいて、今現在に至るまで天皇かということ、子供たちが、例えば外国の人たちから「何で天皇なの」と言われて、説明できるか。やっぱりそういうことを身につけることが義務教育ではないかと思います。残念なことに、どの教科書を見ても、そういったことが書かれていなくて、大日本帝国憲法では専制君主みたいな位置づけにしてある。これも実は違うのですが、だから、それで象徴になったようにしかとれない。しかし、そうではなく、前から象徴ですよ。それに一番近いのは、自由社の48、49ページに書かれております。こういうことを他社も取り入れるべきではないかと思います。今の日本の制度はよく機能しているだろうと思います。象徴天皇制を含めてですね。ですから、その良さについて自信を持って理解して、自信を持って国際社会に出られるようにしてあげられるような、そういう教科書になったら良いと思います。それでは、採択にしますが、皆様のご意向で、私も教育出版でいいと思いますが、足りないところがあるということですね。「社会（公民的分野）」の教科書は「教育出版株式会社」を採択することといたしますが、よろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

横井委員長 それでは、「社会（公民的分野）」の教科書は「教育出版株式会社」を採択することに決定いたします。ここで、議事の都合により、教育委員会を一旦休憩いたします。再開は、午後1時00分といたします。

（休憩）

横井委員長 ただいまから教育委員会を再開いたします。「地図」について審議を致します。指導室長、ご説明をお願い致します。

【地図】

指導室長 地図につきましては、学習指導要領には、例えば地理的分野の中で、世界の様々な地域あるいは日本の様々な地域というところで、記述されています。例えば日本の様々な地域のところにおいては、地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色の変化、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を体感させるという記述があります。また、内容の取扱いにおいては、地理的技能を身に付ける指導の際に、地図を十分に活用することと記されています。また、地理の学習だけでなく、歴史や公民の学習でも調べ学習の資料として活用が望まれております。本区

の生徒の資料活用の力を育成することを考慮してご審議の上、全2者からの採択をお願いします。現在使用している教科書は「株式会社帝国書院」でございます。よろしくお願いいたします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さん、ご意見ありましたらお願いいたします。阿部委員、どうぞ。

阿部委員 地図につきましては、結論から先に申し上げますと、帝国書院を推薦したいと思います。地図は今お話にありましたように、地理的な分野のほかに歴史や公民でも参照することになると思いますので、できるだけ見やすく使いやすいもの、そして、載っている情報量が豊富で、新しいということの観点から選ぶことになると思います。帝国書院と東京書籍の2種類ありますが、大きさはA B判で同じ大きさです。帝国書院のほうで全部で176ページ、それから東京書籍が184ページ、少し東京書籍の分量が多いようです。あと、帝国書院は索引が地名の索引のみであります。東京書籍のほうは事項の索引、地名のほかに項目の索引もついています。そのほか、帝国書院のこれまでの地図は、使っている紙に光沢があって、反射して見づらいということがあったようですが、今回のものは艶消しになりまして、とても見やすくなりました。あと、ほかに特徴としては、写真等については東京書籍が大きくて多いような印象を受けました。これらを踏まえて、2つばかり特徴を申し上げますと、まず、領土・領海についてどう扱っているかですけれども、どちらも見開きの後ろのほうの最後のページのところに領土・領海についての説明があります。それから、帝国書院はさらに、それぞれの地図の場所にも領土の記述がなされています。例を申し上げますと、帝国書籍の75ページから77ページの見開きを見ると、75ページのほうに尖閣の写真とその位置が載っています。それから裏側の78ページに移ると、地図の中に竹島の説明が載っています。北方領土に関しては137ページ、北海道の地図の上のほうに、地理や歴史で出てきた北方領土の条約の変遷についても地図の上にも表示されているように、比較的詳細に扱っています。この点では帝国書院の方が、詳細な記載があるということです。それからもう1点、鳥瞰図として上から眺めた図については、例えば帝国書院の51ページを見ると、ヨーロッパ大陸を空の上から眺めるような地図になっています。同じような地図は、東京書籍では37ページ。これは少し性質が違って、海の底の海溝のような立体的な地図になっていて、使い道が違ってもいいかもしれませんが、それぞれおもしろい特徴があって、使いやすいのではないかと思います。もう1点は、身近な分野の勉強として、墨田区を含む都心の地図があったほうがいいだろうと考えて、この点を調べてみましたところ、帝国書院の場合、比較的詳しい地図があります。119ページとさらに詳しく121ページに都心の地図がありまして、ここでおもしろいのは119ページの地図に海に沿って緑のラインで、江戸時代の海岸線の位置だという表示がなされています。それから、120ページの右側には江戸時代の都心の位置関係の地図が出ています。歴史を勉強する場合にも参照できる地図かと思えます。それから、同じく121ページ、122ページを見ると、墨田区の地図が大きく出ており、これを見ると、例えば墨田、八広、京島、横川など、墨田区の地域の名称がこの地図から読み取れることと、スカイツリーや江戸博、あるいは向島百花園などという表示があって、墨田区の地域を勉強するときにも十分使える地図ではないかと思います。これに対して東京書籍は、都心の地図がこの111、112ページ以外には見当たらないので、墨田区を調べるときには小さくて不便かなと思います。この点では帝国書院のほうを利用しやすいということになります。そのほか全体的に見た場合には、グラフや図版の量が若干、帝国書院の数が多いように思いました。そのようなことを踏まえ、現在使われているのが帝国書院ですので、使いなれている点も加味すると、帝国書院が良いということになります。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。何かほかにご意見あれば。はい、雁部委員どうぞ。

雁部委員 今、ほとんどの特徴を阿部委員さんに述べていただいたので、ポイントだけ。私は、地図という性質上、やはり見やすいということがポイントになると思います。まず、帝国書院75ページ、東京書籍も75ページ。南西諸島との関係ですが、帝国書院は、本土と南西諸島の位置関係というのが全体で見渡してわかるようになっております。それで、東京書籍は、全体的な位置関係というのは、次の75ページには載っているのですが、1ページ分なので、図柄が小さくて見にくいかなと思います。それと帝国書院78ページ、79ページ、80ページとありますが、東京書籍が73ページですね。右側見ていただくと、小笠原諸島が載っていますが、これも帝国書院は本土と小笠原諸島の関係が一目でわかるようになっておまして、東京書籍は小笠原諸島だけ載っています。もう一つ、その同じページで、帝国書院は、右下の日本列島って書いてある右側にイラストがありまして、大体この辺を地図にしているという目安が載っているの、これは非常にわかりやすいかなと思います。もう一つだけ、巻末ですが、これも阿部委員から指摘がありましたが、帝国書院は領土・領海・領空を示していて、175ページの左側、各島の写真が載っていて、隣にイラストが載っているんですが、それがリンクしてわかりやすい。イラストのほうには縮尺が載っているんですね、どれぐらいの大きさかと。これも東京書籍にはないところです。もう一つ、東京書籍は、排他的経済水域については、写真というか絵に海溝まで載っているの、少し見づらいかなと。帝国書院はシンプルで良いかなと。東京書籍の良いところは色使いですね。やっぱり目に優しいということと、文字が白抜きで赤字になっていて、大変見やすいと思います。統計資料が豊富である。帝国書院は、先ほどもご指摘がありましたが、以前よりは良くなったのですが、相変わらず黄色みが強くて、照明の反射によって見づらいことがあるので、この辺は毎回思うのですが、何とかならないかなと思っております。ただ、全体的なバランスを考えると、帝国書院が良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、坂根委員どうぞ。

坂根委員 私も帝国書院を推薦いたします。今おっしゃったお二方とは違う観点から申し上げます。一つは、帝国書院は、巻末に書かれている国名が正式国名で書かれています。例えば「サウジアラビア王国」というような形です。東京書籍は通用国名の表記で、似たような国名がある場合、「ドミニカ国」と「ドミニカ共和国」などと別になっています。ただ、地図上では両方とも「サウジアラビア」で、「王国」は書いてありません。私が持っているワールドアトラス、これは帝国書院が出版元ですが、それには地図上も全て正式国名が書いてあります。なぜこれが利点かという、地理的観点だけでなく、その国の歴史的な背景、そういうことも知ることができるからです。次に、地図上の書き込みで申し上げます。帝国書院41ページ、アフリカの地図です。東京書籍49ページ。図としては、東京書籍のほうが大きくて見やすい感じがしますが、ここにある「コートジボワール」という国を見て比較してみてください。コートジボワールの下に、東京書籍ではギニア湾とだけ書いてありますが、帝国書院の場合はギニア湾の上に象牙海岸と書いてあります。この象牙海岸と書くことで、コートジボワールの国名と関連づけて考えられます。帝国書院にはこういうものが詳しく書いてあります。鳥瞰図に関して、東京書籍の場合は、鳥瞰図で地形はよくわかるのですが、内容には特筆すべきものはありません。帝国書院には25、26ページの中国の地図ですが、名所も書いてあります。例えば、漢詩で習った黄鶴楼というのが長江の中下流平原のところに書いてあり、学習に広がりを持たせます。もう一つ、私が両方ともに疑問に思うのは中国語の表記です。片仮名で書いてあり、これは原音に近いものかと考えているようでございますが、それが統一していないのです。例えば「アモイ」は「ア

モイ」,「ペキン」は「ペキン」となっていますが、現在では地名としては、空港の表記では、「アモイ」は「シャーマン」,「ペキン」は「ベイジン」となっています。私が日常使っている「ワールドアトラス」、同じ帝国書院出版のものですが、それにはそのように書いてあります。それから「シュコウ(珠江)」, 広東省に「シュコウ」という河があるのですが、それは両社の教科書とも「チューガワ」となっています。長江は「チャンチャン」です。同じ「江」と言う字を使っているのですが読み方が異なっています。このような読み方の不統一は、意味を示すのか、音を示すのか、慣用的な読みなのか混乱させ、学習する者にとって非常に不便ではないかと考えております。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。教育長、どうぞ。

教育長 私は、地図そのものが、帝国書院が見やすいという印象を持っています。それから、例えば帝国書院で8ページ、やってみようという下の囲みですけれども、こうしたコーナーでは、地図帳の中に調べ学習や思考を促す学習課題が設定されている点もよいということで、帝国書院を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も帝国書院が良いと思います。先ほどご指摘のあった帝国書院の122ページの墨田区の地図を見てみますと、どうも学校の部分はその他の市街地の黄色い表記になっているようですね。小学校、中学校、全部入っているのかもしれないと思うので、うまく活用すれば自分の地域がどこかわかるなど、今見ていて思いました。ということで、皆さんご異論ないようなので、「地図」については「株式会社帝国書院」を採択することにしたいと思いますが、よろしくご協力をお願いします。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「地図」につきましては、「株式会社帝国書院」を採択することで決定いたします。それでは、引き続き「数学」について審議をいたします。指導室長、よろしくお願いいたします。

【数学】

指導室長 数学の目標は「数学的活動をとおして数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。」となっております。数学的活動ということですが、配慮すべき事項としては自ら課題を見出し、解決するための構想をたて、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けることとされています。また、体験に基づく実感的な理解や表、式、グラフなどを用いて変化や対応の様子を調べて、その特徴を考えることが重視されています。本区の生徒の実態を考えると、基礎的・基本的な内容の習得に対して十分配慮がなされ、且つ補充的な学習や発展的な学習が適切に取り扱える教科書が望まれます。数学の現在使用している教科書は「株式会社新興出版社啓林館」でございます。全7者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。委員さん、何かご意見、よろしくお願いいたします。雁部委員、どうぞ。

雁部委員 数学について説明申し上げます。まず、数学については、墨田区の学力向上で一番課題となっている科目と捉えております。全国学力調査の結果を見ても、特に数学は学力が向上しているとは言いがたい結果となっております。なぜ成績が良くならないのか。それは、単純にわからないから

であります。つまり、基本ができていないということなので、ここは基本を忠実にあらわしている本を選びたいと思います。お薦めしたいのは東京書籍、対抗として啓林館です。まず、東京書籍から説明いたします。1年の教科書で説明します。全般を見ると、色使いは優しくて、とても良いと思います。7ページの数学マイノートですが、この下に、式の間違い例を載せて、正しく直す方法を書いています。これは考え方として、人間だから間違えるということを前提にして、しかも間違いを正しく直してあげるという例を挙げているのが良いと思います。つまずきをなくして、基礎・基本が身につくよう工夫しているところは評価できると思います。今の話の実例を挙げますと、87ページ、91ページにもありますが、下のほうの右側に、間違い例ということで、間違い例が載っております。その下に、小さい字ですが、間違い直しということで、87ページの場合は「279ページをごらんになってください」ということで、279ページを見ると、間違い直しということで、正しい計算の例が載っております。これは良いと思います。同じく87ページの右側を見ると、さらに練習ということで、計算式が載っていますが、これは、左側の計算が終わった子供は、自分で先に進みなさいということで、待っている必要がないわけですね。できる子はどんどん先に進めるよう工夫してあるというところはとても良いと思います。あと、全国学力調査の課題をもとに作成した問題を取り上げております。これはほかの教科書にも載っております。各節の基本の問題でも、振り返って調べられるようページが載っています。こちらのページを見てくださいという案内が載っております。248ページ、社会とつながるで、数学の役立つ例を載せております。248から251ページまでです。2年生の本も少し見たいと思います。2年生の8ページから9ページ。こちらは、式の計算で陸上競技場のトラックの例、あるいは同じく2年の49ページ、清掃ボランティアの例が載っていますが、これも式であらわすというところ。次のページをめくって、50ページはバスケットの例など挙げております。生徒にかかわりの深い行事、スポーツなど、全体的に生徒の興味をそそる題材を多用して、飽きない構成となっております。もう一つあります。1年生に戻りまして、233ページ。算数の振り返りという項目で、問題がわからない場合は、右側に載っていますページを参考にすると良いということで、まとめ編で答えの例が載っていて、とてもわかりやすいと思います。基本的なことをもう一度確認できるようになっていて、基礎学力の定着には有効であると考えます。次に啓林館ですが、現在使っている教科書よりは色使いも優しくなって、シンプルになりました。ただ、2分冊となっておりますので、ここは賛否両論があると思いますが、私は1冊でいいのではないかと思います。啓林館1年生の10ページ、ノートの書き方です。ここはわかりやすく書いてあって、良いと思います。各ページの右端にキーマークがあり、ポイントを指示しているところもわかりやすいと思います。全体的に問題形式で、例題を挙げながら進めていく方法をとっております。ただ、基本的なことはしっかり捉えているのですが、少し心配なのは、専科の先生によって進め方に格差が生じやすいかというところです。次に、教育出版は国語の教科書同様、色みが少し強く、ページが上になっております。教育出版1年の76ページ、「確かめ」という項目がありますが、あるいは80ページの「基礎の確かめ」という項目で、基礎・基本を着実に身につけるように工夫してあります。最初に戻って4ページ。教科書の使い方の説明、あるいは6ページの学習を進めるに当たっての文章がとても優しく感じました。45ページ、こちら誤答例を示して、どこが間違っているのかという間違いを考えさせる問題を設けております。155ページ、数学が何で役立つかということ、具体例を挙げて学習している。125ページ、練習問題で反復練習ができるようになっておりまして、各学習のまとめもわかりやすく整理されていると思います。次は数研出版ですが、これも1年で、印象は大変シンプルで、

昔の教科書という感じがします。「出発前のクイックチャージ」というところで、「算数の復習」というのがとても良いと思いました。14ページの項目の初めに、ここで学ぶことを明記して、学習の見通しを持てるようにしている。全体的に基礎・基本重視の教科書であるが、基本・応用ともに問題量が少ないのが気になりました。次に、日本文教出版ですが、これも全体的に色使いがよく、見やすくできております。10ページから正の数と負の数と入るのですが、各章で学ぶ前にということで過去の復習ができるようになっておりまして、これは導入には良いと思います。それと、37ページ。これも先ほどの東京書籍と同じで、チャレンジということで先に進めるようになっております。練習問題が載っています。19ページには、数学の探検という項目で実際に使われている例などが挙げられており、わかりやすいと思います。52ページ、章の繰り返し練習というところがあるのですが、これはほかの教科書と違まして、数字が書いてあるのですが、記号を自分で入れて問題をつくって計算しなさいとなっています。ここは、生徒の自主性を重んじる上で大変おもしろい練習問題かなと思います。全体的に基本に忠実で、勉強の習慣化を定着させる工夫がしてあって良いと思います。大日本図書ですが、見開きの2ページ目、1年、2年、3年とも載っております。この教科書で学習する皆さんへ。表紙の裏面ですね。「はじめに」というところを読んでみると、すごく良い言葉が書いてあります。大日本図書は、前回に比べて、今回かなり力を入れてきているように思っております。1年の12ページ、ここは東京タワー、福岡タワー、東京スカイツリーの違いを使った説明がされております。また、58ページをあけていただくと、社会にリンクというコラムがありまして、実際に数学がどのように役立つのか、現場の方の意見を聞いているのが大変おもしろいと思いました。続きまして、学校図書は、導入における振り返りについてというところは大きっぱで、少しわかりにくいと思いました。確かめよう、計算力を高めよう、まとめ問題と続いて、最後に関連する職業が載っています。いずれも量が豊富で、問題集的な要素があります。例題と問題のバランスがとても良いと思います。以上、全部紹介しましたがけれども、私は東京書籍をお薦めしたいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。坂根委員さん。

坂根委員 今、詳しい利点をいろいろと雁部委員が述べられました。ありがとうございます。区の学力調査のポイントによると、当区の生徒は記述式の問題に無解答が多いということが言われています。それは国語も含めてですが、学習指導要領改訂のポイントに「数学的表現を用いて根拠を明らかにし、筋道を立てて説明し伝え合う活動」ということがあります。数学的表現を用いるということは言語能力が必要とされます。言語能力、つまり項目のわかりやすい説明が数学力の向上に重要かと思います。その意味で、私は第1番目に数研出版を推薦します。第2は啓林館です。まず、数研出版は、先ほど雁部委員の説明にもありましたが、「出発前のクイックチャージ」で算数の復習から始まっています。最後のところに、巻末のほうにチャレンジ編、239ページ、「ぐんぐんのぼそう チャレンジ編」というのがございます。チャレンジ編には詳しく、最初のところに囲みで基本のまとめが書いてあって、易しい問題、確認しよう、深めようとなります。深めようの中で、例えば243ページ、例題がありまして、解答が書いてあります。解答例が書いてあるということは、今まではわからなかった学習者も、ここで解答を見ながら、こういうふうに進めていけばいいのではないかとということがわかると思います。また、同じく1年46ページに、数の集合と四則とありまして、集合の中の自然数の理解が書いてあるのですが、一番大きな枠が全ての数、そこにはマイナス2、4、マイナス3分の2などがあります。次の囲み、整数、これがマイナス3、マイナス2と続いて0、そして自然数は1、2、3。この表の書き方は非常にわかりやすいと思います。東京書籍1年の43ページに、同じような表

があります。42ページには同じようにありますが、43ページを見ると、自然数、整数、数、こういう形になっています。数研出版のほうは、整数のとき、マイナスは-1、0、1から自然数になる。この形がわかりやすいのではないかと思います。啓林館は、円の中に整数があって自然数というような形で、また変わっていきます。これは理解に役立つのではないかと思います。もう1点申し上げます。数学の思考の基本となる表現ですが「逆」というのがあります。逆というのは、ある事柄の仮定と結論を入れかえて得られる事柄を元の事柄の逆というのですが、この逆の場合、大日本図書、東京書籍、教育出版が、その場合は定理の仮定と結論を入れかえたものを逆と言う、そして次にそれぞれの逆を言いなさい、逆も正しいことの証明が必要、そういう問題に入っているのですが、日本文教出版と啓林館と数研出版は、「結論を入れかえた関係にあるということを言います」といいますとなっています。ポイントは「ある事柄が正しくても、その逆は正しいとは限らない」と、ここに力点を置いています。数研出版2年の134ページを見ます。二等辺三角形になるための条件で、真ん中辺に普通の字で、このようにある事柄の仮定と結論を入れる、事柄の逆と言う。そこのもう少し下に行くと、正しい事柄の逆がいつでも正しいとは限らない。ここがポイント。そして、下のほうに、ナビちゃんというのが、正しくない場合、反例を1つ示せばいいということ。ポイントがはっきりしています。啓林館も2年125ページで、グリーンの囲みです。このように2つの事柄は仮定と結論を入れかえた一方を他方の逆と言います。最後に、ある事柄が正しくても、その逆は正しいとは限らない。最後の行ですね。この書き方がわかりやすいとえます。その点で、第1に数研出版、第2に啓林館を薦めます。先ほど、少し地味な感じがすると雁部委員がおっしゃいましたけれども、私は、数学はなるべく余計なものがないほうが良いと思います。そのほうが、思考ができるし、逆に、数学に対する夢が広がるのではないかと思います。漫画などはほかの教科にも使われているので、要らないと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。阿部委員。

阿部委員 私は、結論としては東京書籍、そのほかに数研出版もなかなか良い教科書だと思います。私自身も数学は得意ではなかったので、特に苦手意識が強いほうでした。墨田区でも、やはり数学が苦手な生徒さんが傾向としては多いのではないかと思いますので、とにかく数学がおもしろくてわかりやすく、とつきやすいという、苦手意識をまず払拭していただかなくてはいけないだろうと思います。中学になると方程式だとか因数分解だとか出てきますけれども、今勉強することがどんなことに役立つのだろうか、どんな生活と結びついているのだろうかということがないと、数学というのはできる子にはおもしろい科目なんでしょうが、苦手な子供にとっては非常にわかりにくいと思います。その点、東京書籍は導入の仕方がうまいのかなと思います。例えば東京書籍の1年で一次方程式が出てくるのですが、82ページを見ると、漫画が描いてあるのですが、一次方程式を解く説明の絵がありまして、キャップは何個集まったかなという導入があり、私のような苦手な子供には、方程式というのはこういうことに使えるのではないかと、こういうことを勉強するために方程式をやるのか、自分がやろうとしていることの役立つ意味が理解しやすいと。例えば、同じ分野で教育出版の方程式のところを見ると、93ページになりますけれども第3章方程式というのがあって、古代エジプトの計算の式が出て、次のページを見るといきなり式が出てきます。多分、算数が余り得意ではないお子さんは、もうこれで何となく引いちゃうような気がするので、できればスムーズに導入してあげると算数に興味を湧くのではないかと思います。それで何を勉強するのかを易しく導入するというのが東京書籍の特色ではないかと思います。同じような例で、2年54ページを見ると一次関数が出てきます。

なぜ一次関数をやるのだろうかというところで、これも導入が電気ポットとやかんとどっちが先に湧くか、関数を使うとわかるのかなということで、関数の意味合いがスタートラインで理解できるのかなと思います。同じように、3年生を見ると、92ページで今度は「 $y = ax^2$ 」などという難しい関数が出てきます。これがどういうふうにして私どもの生活に役立つのかなというような導き方として、ジェットコースターの例を挙げて、ジェットコースターの動きを頂上から下にだんだんスピードを増して走っていくようなイメージを、関数を使うとこういうことが計算でわかるのかなという、とっかかりのイメージがつかみやすいので、算数の苦手な生徒を対象にすると、東京書籍がわかりやすく導いているのではないかと思います。これが良いのかなと思いました。他の教科書もそれぞれ特徴があって素晴らしいのですが、苦手な生徒には難しいと思うような教科書が幾つかありましたので、易しさということでは東京書籍が良いと思います。あと、数研出版の本も、私はなかなか使いやすいと思っていて、さっきお話に出たクイックチャージということで、ある単元に入る前に、それまで勉強したことをきちんと整理して、まとめておくということでない、算数は段階的にきちんと仕上がっていないと、途中から何か新しいことをやってもつまづいてしまうことがあるので、これは良い取り組みであろうと思います。先ほど坂根委員がおっしゃったように、後半にチャレンジ編というのがあって、ここに模範解答の例が載って、その後いろいろな問題が出てくるので、自分で学習するときに模範答案の書き方を見ながら勉強できるということで、自宅学習にも適しているのではないかと思います。そのほかは省きますけれども、墨田区の状況にとっては、東京書籍が易しさということから考えて、一番良いだろうと結論づけました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、教育長どうぞ。

教育長 先ほど雁部委員からもありましたけれども、本区では数学科にも課題が多いということです。まず、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、発達や学年の段階に応じた反復による指導の充実と、それを踏まえた発展的な内容への接続が重要であると考えています。そうした意味で私は、まず日本文教出版ですけれども、各章末に繰り返し練習の問題や確かめ問題、これは1年だと52ページですけれども、多くそういう問題が掲載されております。それから巻末に、270ページですけれども、力を伸ばそうということで、次の学年につながる問題が多くまとめられている点が良いと思います。また、啓林館ですけれども、これは1年の76ページです。自分の考えをまとめようというコーナーで、数学科の目標である、活用して考えたり判断したりしようとする態度の育成にふさわしい内容ではないかと思います。また、章末に確かめの問題と章末問題が多く掲載もされています。さらに巻末に、1年246ページですけれども、発展的問題が多く掲載されているのも良い点だと思います。両社甲乙つけがたいのですけれども、人によりますけれども、私は分冊になっている点が、家庭学習でも手軽に扱える点を考慮して、啓林館を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私から、委員長としてでなくて一委員として、それから元教員として、一言お話をしたいと思います。それは、最初に雁部委員におっしゃっていただいたように、どの教科書もみんなよくできていると思います。それぞれ工夫されています。良いところを探せば、良いところがたくさんある。例えば、今ご推薦のありました東京書籍の3年、それから数研出版の3年、それから啓林の3年の、東京書籍234ページ、数研出版の216ページ、それから啓林館の248ページは、応用として、かね尺、さしがねの図が出ております。これ、技術でもさしがね使うというお話がありましたよね。ですから、子供たちに身近な道具が、数学、図形の問題の処理の応用として出てくるということですが、読み比べてみると、啓林館は2ページ使っているせいもありますけ

れども、啓林館のほうが非常にわかりやすい。それから、裏の目を使うと、円の丸太から正方形を取り出すときの一辺の長さがわかるような仕組みになっているわけですが、そういったことの説明のほかに、平行線をいろいろ引くことができるということが啓林館には書かれております。それは数研出版にも少し書かれています。東京書籍には平行線の話は出てこないという感じですね。全て結局、一長一短があります。私が申し上げたいことは、今現在使用している教科書は啓林館ですね。啓林館で3年間やってきて、例えば今の2年生は1年のときに学習している。来年3年になる子供たち、2年間、啓林の教科書で授業してきているわけで、数学のように積み上げが必要な教科書の場合には、そういう継続性といいますが、安定性みたいなものが必要だから、それぞれ一長一短はあるにしても、これまでの子供たちの積み上げと、それから先生方のそういう継続的に指導するというふうな指導内容の系統の継続性みたいなこと考えると、票が割れているだけに、現在採用されている会社の教科書を使うほうが無難ではないかと思うし、教科書を変えれば学力が上がるということの保証もあるわけでもないのだとしたら、私は現行教科書を採用するほうがいいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。私は、それぞれ教科書の良さがあることはよくわかるけれども、いろんな事情を考えると、啓林館を継続して採用するほうがいいのではないかと思います。何かご意見いただければ。

坂根委員 一言だけ。私も数研出版の次に啓林館を推したのですが、2分冊になっているのが気に入らないというか、なぜ2分冊にする必要があるのかに疑問があります。教育長は何か2分冊は良いというお話でしたけれども、それは考え方の違いだと思いますが。私は2冊よりも1冊のほうが良いと考えております。

横井委員長 今の形勢でいくと数研は1票なので。

坂根委員 そういう意味では、次に啓林館ということになります。

横井委員長 では、雁部委員どうぞ。

雁部委員 今、委員長がお話しになった、今までの教科書会社を継続して使うほうが良いだろうということですが、やはり学力の向上を頭に入れた場合に、ある意味、このままでいいのだろうかという疑問があったので。最初に説明したように、基礎・基本はできていないというところが一番気になるところなので、まずわかりやすい教科書から。応用については参考書なりなんなり、どんどん進んで勉強しようと思えばできるので。まず底上げをするということが大事だと思います。今おっしゃったような考え方でいくと、例えば一回教科書を決めたら、4年に1回改訂がありますが、8年使うというのが前提になってしまうという考え方もあるので、その辺はいかがなものかというのと、このまま啓林館を続けて使って成績が上がらなかつたらどうするという、その辺もあります。変えたから上がるというわけではないですが、そういう考えでいくと、どの教科書を使っても同じじゃないかということになってしまうので、その辺は、例えば啓林館を続けて使うにしても、まず、数学の学力を少しでも上げるという、教科書以外の問題になってしまいますが、その辺、力を入れていかないと、なかなか学力が上っていかないと思うんで、その辺にももう少し力を入れて、ぜひ墨田区の子供たちの学力を伸ばすという条件で、啓林館でも良いかなと私は思います。

横井委員長 他の委員さん、何か。阿部委員どうぞ。

阿部委員 私も啓林館で別に異存はないのですが、どうも坂根委員がおっしゃるように、別冊が厚みがあって重いのと、それからせっかく別冊にしていながら、例えば本文の中で1年の165ページを見ると、欄外に「生かそうナビ」と、別冊のことを言っているんです。「生かそうナビ」と矢印がついていて、ナビの24ページを見ると、どう生かしたらいいのか全然説明がなくて、本体と別冊のほ

うのつながりがいま一つ練れていないと。問題集として見る場合には、確かに答えを見たりするときは一々後ろ見ないで済むということはあるかもしれませんが、別冊にこだわるにしてはもう少し練ってほしいなというのがあって、外見から啓林館はどうかと思いました。中身については特に、異存はありませんので。

横井委員長 多分これは、いちいち持ってこないで、家庭に置いておくなり、学校でまとめて預かったりするのではないかと思います。それから、今の24ページの話は、160ページあたりの扇形の弧の長さの発展として扱っているような。ですから多分、これだけ見たら「えー、どこ」と思うかもしれないけれども、丁寧に見て、あるいは何らかの先生の指導があれば。

阿部委員 先生方のアドバイスによって生かせるのですね。

横井委員長 それは当然あるでしょう。

阿部委員 なるほど。

横井委員長 これが例えば教科書に載っていると、これがおもしろそうだから、こっちはっかり見ていて、教科書本体を読まないということがあるのかもしれないから、あえて別冊にしてあるのかもしれない。

阿部委員 なるほど。先生方のご推薦もあるということで、現状、もう少し様子見て、啓林館で皆さんよろしければ、異存ありません。

横井委員長 それでは、今、皆さんのご意向を伺ったので、啓林館を継続して採用することとして、先生方にはなお一層、子供たちの学力向上のために頑張ってくださいということで、よろしゅうございますかね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「数学」の教科書は「株式会社新興出版社啓林館」を採択することといたします。ありがとうございました。それでは、引き続きまして「理科」について審議をいたします。指導室長、ご説明をお願いいたします。

【理科】

指導室長 理科の目標は、「自然の事物・現象に進んで関わり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。」となっております。いわゆる第一分野が科学的・物理的な物質やエネルギーに関する事物・現象を学習するのに対し、第二分野では地学や生物とそれを取り巻く自然の事物・現象、自然環境の保全に寄与する態度を育て、総合的に見ることができるようにすることが目的でございます。ただし、従来の第一分野、第二分野という分野別の構成ではなく、前回の教科書から、一分野・二分野を取り混ぜた学年別の構成となっておりますので、ご注意ください。学習指導要領による主なポイントですが、知的好奇心や探究心、科学的に調べる能力や態度の育成が一層重視されております。また、自然環境が少ない本区の現状を考えますと生徒の直接の観察や実験が限定されることも予想されます。採択に当たりましては、動植物の資料や写真がわかりやすく、生徒が取り扱いやすい紙面構成となっている点等も視点のひとつとして、考慮していただき採択していただければと思います。現在使用している教科書は「学校図書株式会社」でございます。全5者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございました。それでは、この件につきましては、議長を務めておりますけ

れども、私から理科についてお話をさせていただこうと思います。と申しますのは、前回の採択のときに私が理科について強く推しておりました学校図書ですが、先ほどの数学の話とは逆行するようですが、現行をやめてはどうかと思うので、そのお話をさせていただきたいと思います。学校図書の1年生120ページ。それから啓林館の219ページ。ここに圧力の定義があります。比べていただくと、少し違います。実は、これが新しい学校図書の教科書です。今使っている学校図書の教科書は、圧力の式が1行になっているけれども、現行は2行になっています。これは今お手元にある啓林館と同じような趣旨の式が書かれています。実は他社も新しい学校図書と同じように1つの式だけになっています。これは圧力の定義の式ですが、圧力の単位はパスカルですと言って、パスカルというのは1平方メートルにかかる力の大きさですということを、パスカルという単位が先あって言っているわけです。啓林館と、それから現行の学校図書は、そうではなく、圧力というのは、パスカルは後について、圧力というのは1平方メートル当たりの力のことを言うのですよというのをメインにしたのが啓林館と現行の学校図書です。私の経験からすると、物理なり理科を専門にやっている人たちは、パスカルというのはもうイメージ湧いているから、そんなに難しくなく理解できますが、突然パスカルという単位が出てきたら混乱します。その前に力の大きさはニュートンですと。ニュートンもよくわからない。そこにまた新たにパスカルが来てしまったら余計わからなくなってしまいうから、そういう混乱を避けるために、啓林館のような扱い方が良いだろうということで、前は学校図書を選んだわけですが、そういう問題があるということです。高校のときに物理をきちっと習得していなかった大学生に初歩の物理を教えてくれと頼まれたことがあって、しばらくやっていましたが、学生たちはほとんどパスカルを覚えていないです。物理は難しく嫌だったから高校ではとっていないというわけです。そういうことがあるので、私は、そういう基本的なことの考え方を十分にやらないと子供たちには難しいかなと思って、前の学校図書とか啓林館の考え方を支持していたのですが、趨勢としては、学校図書が方針を変更したように、変わってきているみたいな感じがいたします。ほかに、水の電気分解の仕掛けや何かについても気になる場所がありますが、それも学校図書は方針を変えてしまって、他社と横並びに、水の電気分解というのは、特別な装置を使って電極に電気を流すと、その装置の中でガスが出るようなイメージを子供たちに湧かせてしまうと。そういうようなことは望ましくないのですが、なかなかですね。多分、先生方もそういうやり方はなれていないし、やりにくくて、初めから実験装置を使ってしまったほうがいいから、H型の電気分解の装置を使っている。それを、学校図書だと2年17ページです。だから、こういう装置で何かが起こったことを見た記憶はあるけれども、何をしたのかがよくわからないというおそれがあります。これも前は、やや特殊ですけども、水槽の底から電極がついているところに電気を流すと、底に泡が出るので、その泡は何かというのを調べるから、水に電気を通したというイメージが湧くけれども、新しいやり方だと、特別な仕掛けに電気を通して電気分解ができたというイメージになってしまうおそれがあるわけですね。ですからそれも、転向してしまったわけなので、そうなる、別に学校図書を推薦していく必要がないので、客観的にいろんな見方をしていって、最終的に、総合的に考えて、東京書籍が良いのではないかと、推薦したいと思います。わかりやすいところでいきますと、東京書籍1年の171ページ、スカイツリーが載っておりますけれども、他社もスカイツリーが載っているところはあるのですが、これは垂直抗力の説明のために、重い力が地面にかかるということの例として、力学の題材として載っています。ただ飾りで載っているわけではない。それから、3年166ページ、これはスカイツリー全体の構造について説明をしております。先ほど、国語で五重の塔の話にあったのと合わせると、非常に良い身

近な材料が国語の説明文とも理科の力学ともリンクして、良いことになるのではないかと思います。それから、お手元に1年、東京書籍がありますけれども、193ページ。これは、「しんかい6500」は公的につくられた深海探査艇ですけれども、その右側に江戸っ子1号というのがあります。この江戸っ子1号にかかわるのに力を尽くしたのは墨田区の浜野製作所という町工場なわけですね。ですから、そういうようなことで子供たちが、すごい研究所がつくると、もちろんスケールは違いますが、匹敵するぐらいのすごいものを町工場の力でつくれると。ものづくりの墨田区としては、これは非常に良い読み物になるのではないかなと思います。そのほかにも、単元末、例えば今の1年67ページを見ますと、学びを広げよう、自由研究ということで、自由研究をします。その下に、科学の本棚というので、本が2冊紹介されております。各単元末にそういうようなところがあります。本区の図書館を使って調べる学習コンクール参加のためにも良いのではないかと思います。どの教科書も同じですけれども、部分的に見れば不満なところもないわけではありませんけれども、総合的に見ますと、そういったことで東京書籍を推薦したいと思います。ご意見のある方はどうぞ。坂根委員さん、どうぞ。

坂根委員 今お話ありましたけれども、私は、学校図書もなかなか良いと考えています。というのは、理科とか科学の基本となるレポート、ノートの書き方、スケッチの描き方、これは学校図書が一番良く書いてあります。例えば1年の14ページ、15ページ。見開きで1ページに、基本操作、ノート、レポートの書き方、テーマ、目的、予想、準備、方法、結果、考察と、どういうものを書くというようなことを書いてありますし「感想は考察ではありません」と次のページに書いてあります。また、スケッチというのは、今、ICTが発達してiPadでいろいろ撮ったりするのですが、安易にそういう機器を使うだけだと、実際に観察することを怠る危険性があります。同じ学校図書の144ページ、これにスケッチの描き方が詳しく書いてありまして、ほかの社より説明も多いのですが、144ページ、145ページ、スケッチの仕方。美術とは違うという、影をつけてはいけないとか、それから、動きやにおい、色などは、スケッチではあわせないものを言葉で書くというような書き方になっています。こういうことが一つ利点だということです。先ほどのパスカルの説明は委員長のおっしゃるとおりだと思います。先ほど社会科で申し上げたように、民主主義には多数決の原理があるという前に、なぜ多数決が必要とされてきたかという、順序立てて考えないと論理的思考に結びつかないということが共通でしょう。もう一つ、全般に疑問がありましたのが用語のことで、動植物の学名を、漢字が表外字であるためか、片仮名で書いてあるのが多かったです。片仮名でイメージできるのか、これは生徒に限らず大人も難しいのではないのでしょうか。例えば2年で、脊椎動物というのを片仮名で書いてあるのが東京書籍、大日本図書、漢字が教育出版、啓林館、平仮名は学校図書ですが、漢字で書いてあるところは、振り仮名を振ってあります。哺乳類も、片仮名が東京書籍と大日本図書、漢字が教育出版、啓林館、平仮名が学校図書です。啓林館には2年43ページに、脊椎動物は背骨を中心とした骨格と筋肉を持ちと、そういうふうに説明してあります。教育出版は167ページの、背骨は脊椎とも呼ばれる。学校図書は平仮名で書いてありますが、190ページに「言葉」という欄があります。そこに190ページの、脊椎動物はどのように分類できるかの右のところ、辞書のマークがあるところです。そこに漢字で「脊椎動物」と書かれ「背骨のある動物という意味である」と説明があります。保健でも脊柱管とか、脊という字は使われ、その分野ではこの漢字はよく使われます。また学校図書の1年を見ても、162ページ。裸子植物、被子植物のことが書いてあります。162ページ、松の花のつくり方。言葉のところに書いてあります。ここで、鱗片ということが書いて

あります。どの教科書でも鱗片、「りん」が平仮名で、「へん」は「片」という字ですね。学校図書では、鱗片というのがどういう意味かというのを、漢字で「鱗片」と書く。「鱗」は「うろこ」という意味でなっています。この「うろこ」ということがわかれば、もう実物を見ればすぐにわかります。次は「花粉のう」。「のう」は「嚢」で意味は袋である。となっており、説明がきちんとなされています。このように、漢語によって、まずそのイメージを持つということが大事だと私は考えます。この漢語の文化というのはいすばらしいものです。英語で裸子植物をあらわした場合に、専門家以外、その英語を聞いてもわかるということはなかなか難しいというふうに聞いています。ですから、こういう形で書くことは評価できると考えています。

横井委員長 ありがとうございます。ほかにご意見。では、阿部委員どうぞ。

阿部委員 私は、結論を申し上げますと、東京書籍が教育出版が良いと思えました。やはり理科という科目を、墨田区のお子さんにとっては苦手な分野の科目のようですから、何とか学力向上に向けて良い方向に向かっていただきたいと思います。数学と同様に、興味を持つおさんはどんどん自分から勉強されるでしょうけれども、苦手なおさんはどうしても苦手意識を持って、なかなか理科は好きになれないというようなことがあるように思いますので、やはり平易におもしろく書いてあることがまず大事だろうと思います。いろいろ見ていけば、細かなところまで深まっていくようなことが書かれている本もありますが、やはり全体的に、まず入りやすいというようなところから、いかに興味を持ってもらうかというレベルから考えていくと、東京書籍がやっぱりビジュアルなつくりですし、比較的平易に書かれているので、そんなところから東京書籍が良いのかなと思います。また、東京書籍の場合、ほかも一緒ですが、それぞれの単元の後ろの方に学習内容の整理とか確かめ、応用、あるいは自由研究というように段階を踏んで研究できるようなことが書いてありますが、比較的説明がシンプルなので、わかりやすいかなと思います。あとは、ほかの書籍はそれぞれ特色がありますが、いわゆるオーソドックスな印象を受けます。また啓林館は、先ほども申し上げたように、別冊になっているのがどうも重くて何となく使いづらいのではないかなと思います。そのほか、教育出版はやはり東京書籍と比較的タイプが似ていると思いますので、使いやすいのではないかなと思います。学校図書でも、それぞれ先生方が工夫して教えられるわけなので、現行でも構わないと思いますが、できれば易しい教科書からというのが私の考え方なので、東京書籍を推薦したいと思っています。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、雁部委員どうぞ。

雁部委員 今までご説明いただいたことで十分だと思いますが、私も東京書籍をお薦めしたいと思います。長くなるので、重複しないところだけ申し上げます。東京書籍は、写真やイラストが鮮明で、すごくわかりやすく良いと思います。例として東京書籍1年の32ページ。椿の葉の横断面描いてありますけれども、大きく載っていて見やすいと思います。それから、各章の初めに小学校で学んだことの記載があって、復習ができるようになっております。東京書籍3年生の259ページの右下ですが、堤防と桜の防災というところで墨堤通りが載っておりますので、墨田区のことを取り上げていて良いと思います。あとは、1年の130ページ。下町ボブスレーというところですが、これは墨田区ではなく大田区ですが、ものづくりのまちということで、大田区も墨田区も似通った状況ですので、こういうことを取り上げているのは良いと思います。大日本図書の83ページですが、既習事項の確認として、密度計算で算数でのやり方が書いてあるのは、これは算数とリンクして良いと思います。103ページの粒子の実験ですが、見えない部分を視覚化しているというのは、ほかの教科書も載っているのですが、大日本図書のページが一番見やすいです。それから、「やってみよう」という

ところで、身近な材料の実験を紹介しておりまして、簡単な実験でのおもしろさを追求しているところは良いと思います。大日本図書の2年と3年の巻末に原子の種類を写真入りで載せておりまして、これも非常にわかりやすく良いと思いました。学校図書ですが、先ほど坂根委員からご指摘ありました、14ページのレポートの書き方、すごく良いです。275ページの自由研究の例が載っていて、発展的に学ぶ工夫ができております。132ページから136ページの学習のまとめは、すごくわかりやすくできております。教育出版ですが、理科の学習の進め方で、なぜ理科を学ぶのかという問いかけがすごく良いです。これは教育出版1年生の1ページ。写真が多く載っておりますが、やはりどうして勉強するのかということをもっと理解してから入るということで、これは非常に良いと思います。ただ、注釈の字が小さくて、少し見づらいというところが気になりました。啓林館は、各章の初めに振り返りがあって、それは良いと思います。阿部委員から指摘のあったマイノート、2分冊というのは先生によって賛否両論が分かれるところかなと思います。全体を通して東京書籍が一番わかりやすいのかなということで、東京書籍をお勧めしたいと思います。以上です。

横井委員長 教育長、お願いします。

教育長 理科の区の学習状況調査において、中学1年から3年まで、4観点全てにおいて目標値を下回っていて、苦手科目と言えらると思います。とりわけ2年、3年の観察・実験の技能の観点において、大きく目標値を下回っています。したがって、問題解決な学習を行い、生徒が主体的に思考できるような学習方法を促すとともに、実験・観察の技能が高まるための工夫がある教科書が適当だと考えます。そうした観点から検討しますと、まず学校図書ですが、1年の14、15ページにレポートの書き方がここから始まって、いろいろこれから繰り返し掲載されていまして、身につけやすく、主体的な取り組みを促していると思います。巻末に自由研究、1年本でいえば275ページですけれども、そこに、実験・観察の手順や研究テーマを発展的に学ぶよう工夫されています。次に、教育出版です。冒頭に、1年本の2ページから7ページにわたって、理科学習の進め方がかなり具体的に系統立てて書かれております。それから、課題、レポートの書き方も詳細に例示されているほか、253ページの自由研究、ここで実験・観察の手順や研究テーマが例示されておりまして、発展的に学ぶことができるように工夫されています。最後に、東京書籍ですけれども、こちら冒頭に、1年本の4ページから9ページにわたって、教科書の使い方ということで、理科学習の進め方が詳しく掲出されまして、レポート作成や考察の仕方など、どのように活用すればよいかが発展的に示されています。また、実験・観察のやり方などはわかりやすく紹介されています。例えば1年本の45ページには、具体的にわかりやすく書かれております。また、私も全体的に東京書籍の本は写真や図が鮮明で非常に見やすいような印象を持ちます。以上、なかなか優劣つけがたいのですが、今まで各委員からのお話を承ると、私も東京書籍でも結構です。以上です。

坂根委員 先ほどの周期表のことです。2年の周期表のところで、幾つかの教科書でマグネシウムに実際に使われている物の例があります。これを見ると、豆腐のにがりに使われていると言う例なのでしょうが、冷奴が描いてあったり、豆腐のパックが描いてあったりします。ボトル容器に入ったにがりを描いてあるところもあったのですが、ちょっと豆腐だと思ってしまいがちかなと。もう1点、私、初めて知ったのですが、啓林館はタンポポでセイヨウタンポポとカンサイタンポポとなっています。私は、タンポポはカントウタンポポとセイヨウタンポポの分類だと思っていたのです。学校図書と大日本図書はセイヨウタンポポ、カントウタンポポ、カンサイタンポポを記載しています。教育出版はカントウタンポポとセイヨウタンポポらしいものと名前を記載して「比べてみよう」とあります。東

京書籍には絵はあったのですが、1年の51ページ、ただ、写真が見つけれませんでした。カンサイタンポポの植生がどの地域か、啓林館は関西の会社なのでカンサイタンポポに詳しいのか、児童が使う地域も考えて、その後、調査ということをお願いできればと思います。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、理科について採択をいたします。それでは、「理科」の教科書は「東京書籍株式会社」を採択することにしたいと思いますが、よろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「理科」につきましては、「東京書籍株式会社」を採択することで決定いたします。それでは、引き続き音楽・一般について審議をいたします。指導室長、よろしく願いいたします。

【音楽（一般）】

指導室長 音楽科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理科を深め、豊かな情操を養うこと」となっております。採択にあたりましては、「感性や情操を育む」ことが目標とされている教科書の特性から、生徒の興味関心を引く紙面構成であることや、実際の音楽の活動や鑑賞がしやすいように工夫されているなどの点をご考慮いただき、ご審議いただければと思います。音楽・一般の現在使用している教科書は、「株式会社教育芸術社」でございます。全2者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。では、私のほうから、音楽について口火を切らせていただきます。まず表紙を見ると、教育出版はプロの演奏家が出ております。教育芸術社は音楽の雰囲気、いろいろなところで音楽があるという、そういう情景がいろいろ書かれております。それから、表見返しの次を見ると、教育出版は楽譜ですとか世阿弥の花伝書が載っております。教育芸術社は、音楽が、もう少し広がった範囲で紹介されていて、教育芸術社はどちらかというと音楽を広げるほう、教育出版は音楽を極めるほう、何かそういうことが表紙に出てきているのではないかと感じました。どちらの教科書も、導入のページですとか工夫されております。墨田区に関係がある「花」は、どちらも2・3の下の方の4ページにあります。これは導入としては、教育出版はよく工夫されてできておまして、明治時代の隅田川の様子だとか、武島羽衣自筆の「花」の歌碑だとかいうふうなことがあって、墨田区としては大変うれしいことではあります。これだけ見れば教育出版が良いと思いますが、総合的に見るといろいろ問題がありまして、1年の、教育出版は84ページ、楽典。教育芸術社は77ページ、音楽の約束であります。ここに、「ドレミファソラシド」と「ハニホヘトイロハ」の音名と階名というのが載っておりまして、私が見た限りでは、教育出版はここにしか「ドレミファソラシド」と出てきていないです。あと、ほかには「ドレミファソラシド」は書かれてあることはあるのですが、小学校でやっているからいいのかもしれないので。それで問題は、それがシャープやフラットがついた場合どうなるかというふうなことが十分には、これだけでは理解できないところですね。教育芸術社は、後ろ見返しの手前のほう、口絵5というのがありますけれども、口絵5と6でかなりその辺を詳しく、音名と階名と、それから、ト長調とヘ長調の場合の音名と階名が対応してよくわかるように書かれていて、なおかつ五線譜と一緒にあっておまして、これが非常によくわかりやすいのではないかと思います。中学になると八長調ばかりではありませんから、いろんなものがたくさん出てき

たときに、わからない子はわからないまま、ただ覚えさせられるだけだけれども、これがあるといいかなということで感じました。そういったことで、私は教育芸術社、今のままでいいのではないかと考えております。ほかの方、ご意見ありましたらお願いいたします。では、雁部委員、どうぞ。

雁部委員 まず、見た目からいきますと、どうしても教育出版のほうが良いかなと。写真と、先ほど隅田川の墨堤の「花」というところ、隅田川の墨堤の写真、あるいはほかの曲でも、写真と楽譜が大変マッチしていて、見ていて気持ちが良いです。それと、「君が代」の扱いですが、1年、2年、3年とも取り扱っていて、さざれ石の写真も載っていて説明してあります。これは、「君が代」に関してはいろいろありますけれども、2020年のオリンピック・パラリンピックを考えれば、金メダルとると必ず流れる曲なので、ここは子供たちにもしっかり覚えてもらわなきゃいけないということで、大きく取り上げているというのは大変良いと思います。あと、教育出版1年生の40ページ。それから、教育芸術社は45ページ。教育出版は日本の民謡と芸能ということで広い範囲で取り上げております。教育芸術社は日本の民謡ということで絞って取り上げておりますが、46、47ページめくっていただくと「ソーラン節」という有名な曲が載っております、これはどちらも一長一短かなという感じではあります。あと、教育芸術社の方は、2・3年の下の50ページに、ルールとして著作権の問題を取り扱っているところが良いのかなと思います。どちらの教科書でも子供たちには問題ないと思いますので、まだ迷っている状態というか。でも、教育芸術社は今までも使っていましたので、教育芸術社で良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。何かご意見があれば。阿部委員どうぞ。

阿部委員 私も、これを本として見た場合には、明らかに教育出版社の方が写真もきれいだし、歌を練習する前に、まず情景をイメージできるようなきれいな写真と詞をまず鑑賞し、それからおもむろに歌に入るといような流れがあるようなので、見る限りは教育出版社のほうが一応すぐれていると。それから、お話に出たように、国歌についてもきちんと歌の意味や趣旨を学ばせているという点は非常に良いと思いますが、全体の、例えば目次を見たり、あるいは古典芸能などの扱い方を見ると、教育芸術社のほうが何となくしっくりくるような気がしますので、特に大きな差はないとは思いますが、何となく自分が学んだスタイルに近いので、教育芸術社がなじみやすいと思います。今まで使っているのも教育芸術社ですね。ということであれば、特に変える理由はないと思いますので、教育芸術社をそのままお使いいただいて良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、坂根委員。

坂根委員 今、皆さんがおっしゃったことに賛成で、私も現行の教育芸術社を推薦いたします。教育出版社は、確かに新しい情報、それからカラーできれいですが、音楽の基本は感動することにあると思います。新しい情報は教育にとって大事ですけれども、情報量が多いから感動するのではなくて、むしろ余りにも多すぎ、きれい過ぎる情報よりも、少し自分の想像を膨らませられる情報量ということで、教育芸術社の教科書が適しているのではないかと考えます。それから、言葉の説明。「仰げば尊し」とか「花」のわずかな部分ですが、言葉の説明も丁寧になされていると考えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、教育長どうぞ。

教育長 私も率直に言って、内容的には甲乙つけがたいように思います。とりわけ教育出版の、先ほどお話が出ました2・3年下巻冒頭の「花」の歌のバックは、明らかに墨田区の墨堤の桜だと思えますけれども、ただ、全般的に教育芸術社は学習指導要領の内容に準拠して、バランスのとれた構成かなと。また、説明に図や表が多く使われている点は、子供たちにわかりやすいように工夫されている

かなと思っております。そうしたことから、私も教育芸術社を推したいと思えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、満場一致で教育芸術社ということによろしくございますね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 そういうことで、「音楽(一般)」は「株式会社教育芸術社」を採択することにいたします。では、引き続き器楽について進めたいと思えます。指導室長、ご説明をお願い致します。

【音楽(器楽)】

指導室長 はい、器楽の指導事項ですが、1年生で3つ、2・3年生で3つございます。1年生の1つ目は、曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。2・3年生では、曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏することとなります。こういったかたちで、発達の段階を踏まえて多少指導事項が変わっています。1年生のみ申し上げますと、2つ目は、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。3つ目は、声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏することとなっております。現在使用している教科書は「株式会社教育芸術社」となっております。全2者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。じゃ、続いて私のほうから、音楽について、ご提案というか、意見を述べさせていただきます。結論は、教育芸術社がよろしいのではないかと思います。どちらもそれぞれ一長一短、あるいはみんないいといえばみんないいわけですが、一番大きいところは打楽器が、器楽でありながら打楽器が、教育出版は太鼓だけです。打楽器の代表としての太鼓はいいのですが、これ、和太鼓ですよ。

坂根委員 そうですね。

横井委員長 教育芸術社は、太鼓もありますけれども、そのほかに打楽器としていろいろなものが紹介されております。クラベス、シェイカー、カウベル、アゴゴ、ボンゴ、コンガなどですね。カスタネット、タンバリン。子供たちが演奏する場合には、こういったパーカッション類、いろいろ使うと思いますので、やはり入っていたほうがいいのではないかと。それからもう一つ、最後にリコーダーの運指表があるのですが、教育芸術社は後ろの口絵5、6、それから教育出版は後ろの見開きの99ページ。これ見ると、教育出版は白黒のために、光った場合に白丸が見にくいかなと思えました。その点、教育芸術社のほうは見やすい運指表になっているように思います。そういったことで、どちらもありですけれども、教育芸術社を薦めたいと思えます。ご意見のある方はどうぞ。

坂根委員 音楽・一般も教育芸術社だということで、やはり関連性があるものとして、今のご指摘と同じ意見でございます。

横井委員長 ありがとうございます。雁部委員、打楽器奏者としていかがですか。

雁部委員 今、委員長がおっしゃった和太鼓のところですが、私は和太鼓好きなので、和太鼓の神様が載っている、林英哲さんの教育出版が良いのですが、やはり和太鼓だけではなくて、打楽器ということで、教育芸術社は打楽器の種類が載せてある。実際に各学校へ行くと、道具ですが、スネアドラムとかそういったものは必ず置いてありますので、本を見ながらできるかなというところですね。したがって、教育芸術社で結構です。

横井委員長 ありがとうございます。阿部委員。

阿部委員 私も、今まで出ていたご意見に全く賛成ですので、現行の教育芸術社で異存ありません。

横井委員長 教育長。

教育長 これも内容的には甲乙つけがたいのですが、先ほど採択した音楽・一般との関連のほか、教育芸術社では和楽器の取り扱いの箇所でも姿勢や礼儀についても触れられていて、広く日本文化への関心を持たせる工夫がされていることから、私も教育芸術社を推したいと思います。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、音楽・器楽についても満場一致で教育芸術社とすることでよろしゅうございますね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 そういうことで、「音楽(器楽)」は「株式会社教育芸術社」を採択することにいたします。それでは、10分間休憩で、15時10分から開始ということにしたいと思います。

(休憩)

横井委員長 ただいまから教育委員会を再開いたします。「美術」について審議を致します。指導室長、ご説明をお願い致します。

【美術】

指導室長 美術の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」となっております。採択に当たりましては、「感性や情操を育む」ことが目標とされている教科の特性から生徒の興味や関心を引く鑑賞教材の掲載や、表現や造形的な活動の動機付けとなる紙面構成等をご考慮いただきご審議いただければと思います。美術の現在使用している教科書は「日本文教出版株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、ご意見をお願いいたします。坂根委員。

坂根委員 先ほども少し触れましたが、美術や音楽は感動を得ることが大事で、良いものを見て感動すると、人に対しても優しくなれるし、いじめようとか、そういうような気持ちもなくなります。ですから、ある意味で非常に大切な科目だと思います。私は、そのような点から日本文教出版を推薦いたします。まず導入の仕方が良いです。日本文教出版1年の表紙を開いて下さい。「出会って広げよう」とあります。ここにあるのはゴッホの「種まく人」なのですが、そこにゴッホの作品ということ、所蔵はクレラー・ミュラー美術館ということが書いてあります。ここで比較してみます。光村図書は、表紙をめくると、「うつくしい！」とあり、谷川俊太郎の詩とシャガールの絵があります。ただ、これは誰の絵なのか、どこの美術館とか、次の4ページにならないとわかりません。美術2・3では、光村図書は、やはり興福寺の、これも同じく「うつくしい！」となっています。谷川俊太郎は私好きなのですが、少し国語的な感じがします。開隆堂は、「美術って何だろう」となっています。実際の制作現場、これをあらわして進んでおります。それが三社の違いです。私は、この点で、まず広げて、美しいものを見るという、文教出版の出発の仕方が良いのではないかと感じます。さらに申し上げます。日本文教出版は、そのほか、22、23ページ、「身近な人を見つめて」に、ルノアールの絵がありますが、それと対比して生徒の作品も数多く挙げられています。それから、佐藤忠良のブロンズですね。彫刻も出てきます。どの教科書を見ても、本当にどの教科書もすばらしい教科書です。もう1つ、日本文教出版は建築に関する記述が多いです。2・3年の下です。まず、最初のページが、これが磯崎新のアーキ・ノヴァですね。ルツェルンのコンサートホールですね。可動式のコンサートホール。これが最初のページになっています。それから、建築に関しては55ページ、近代の

建築、フランク・ロイド・ライトとル・コルビジエの作品があります。それから、52ページには国立新美術館もあります。その前にいきますと、建築というくくりではないですが、42ページ、「自然をめぐる空間」には、桂離宮があります。これは月波楼の内部から見た視点になっています。ここで、そこに自分を置いて味わおう、ここで自分の存在とその感動を一緒に入れていくというような形で、非常にすぐれています。光村図書は、ライトのカウフマン邸ですが、これは一般的評価とは少し異なっているのではないのでしょうか。開隆堂は特に見当たりませんでした。それから、デザインに関していきますと、光村図書が2・3年の50ページにメッセージを伝えるポスターというので、日本を代表するグラフィックデザイナーの作品が出ています。かなりの方のデザインが出てきます。ほかの社もいろいろあります。亀倉雄策とか栗津潔などはとられているのですが、この社が一番多いです。亀倉雄策は、ここでは広島ですけれども、公民でとられた教育出版に東京オリンピックのポスターがありましたので、そちらで我慢しようと思っております。そのほかに、一番決め手になりましたのは、日本文教出版の2・3年の上ですね。26ページ、伝統的な浮世絵ですが、22、24、25ページ、「東へ、西へ・・・」。そして、見開きで実物大、「神奈川沖浪裏」、「凱風快晴」、北斎がこんな感じで出てきます。これが採択の一番大きな決め手になりました。その他、2・3年の下46ページの下の方、コンテナ多層仮設住宅プロジェクト。これは坂茂さん、プリツカー賞受賞の方の作品です。この方の東日本震災の被災地に建設した海上輸送用コンテナの仮設プロジェクトが載っています。小さいものですが、こういうものがあるということは必要にして十分かと思えます。でも、どの教科書もみんなすばらしゅうございます。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。阿部委員。

阿部委員 私も視覚的な感性に訴えるという観点から考えると、日本文教出版はやはりサイズが若干他の2社より大きい分、ビジュアルな感じが非常に出ていると思います。まず、表紙をあけると見開きで、それぞれダイナミックな美術とか、あるいは2・3年の下を見ると陶芸の伊勢崎淳さん、備前焼をつくっているダイナミックな写真が出てきますし、とにかく感性に訴える点で、ほかの2社よりはすぐれていると思います。先ほどの2・3年上にある北斎の版画はインパクトがありました。2・3年下を見ても、例えば真ん中の24、25ページに仏像、いろんな仏像の写真があって、それをさらに開くと三十三間堂だと思えますけれども、見開きで大きなダイナミックな写真を見ると、オリジナルを見てみたいという気持ちが湧いて、修学旅行でいざ行くのでしょうかから、そういうようなオリジナルなものに引きつけるという意味では、美術として非常に良い題材を扱っていると思います。色合いも日本文教出版が一番いい発色といいましょうか、きれいな色が出ていて、私も1冊欲しいと思うようなきれいな本です。ほかの本も決して遜色はないのですが、若干判が小さいことと、中のいろんな作品の写真の大きさがまちまちであって、開隆堂は何となくごちゃごちゃした感じがする気がしますが、色合いとか写真の出来からすると、やはり光村図書より日本文教の方がきれいなので、全体を見たときには、やはり日本文教に魅力を感じますので、これを推したいと思えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。雁部委員。

雁部委員 全ておっしゃっていただいたので、何も言うことはないのですが、私も日本文教出版が良いと思います。ただ、今回はどの会社も力を入れていて、どの教科書でも遜色ないと思っております。日本文教出版の良いところを何点か。巻末の技法の資料、それは良いと思います。これも巻末、55ページの仏像の種類の説明が入っているのが良かった。それから、生徒の作品が多いということでは

ね。ただ、3分冊というのがどうなのかなというのと、やっぱり折り込みが多いので、ページがめくりにくいという欠点があります。ここを改善していただければと思います。開隆堂、光村図書とも、生徒の作品を数多く取り上げて、とても良いと思います。ただ阿部委員がおっしゃったように、開隆堂のほうは写真や絵の配列が一辺倒で、あまりインパクトがないかなということで、おもしろみに欠けるかなと。光村図書は、坂根委員もおっしゃったように、若干国語的な感じの本になってしまって、かたいかなということです。ただ、ここの良いところは、学習を支える資料で制作手順など丁寧に表示されていて、コンパクトにまとまっているので、私はこっちのほうが良いかなというのがあったんですけども、全体を見て、日本文教出版が良いだろうと。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。教育長。

教育長 私は、3社とも内容的には大きな差はないと思います。決め手は、先ほどお話にありましたように、郷土の偉大な芸術家である北斎の作品が一番、日本文教出版が多いかなと。とりわけ先ほど話にあった原寸大の「神奈川冲浪裏」と「凱風快晴」が非常に印象的なほか、2・3年の上の53ページには北斎を題材に刷りの工程という浮世絵版画の工程が出ているので、子供たちも非常に興味深く見るかなと思う。こうした点で、私も日本文教出版を推したいと思います。以上です。

横井委員長 はい、ありがとうございます。私も日本文教出版でございまして、写真についても、光村図書も扱っておりますけれども、写真について扱っていることと、子供たちの活動の姿がいろんなところに見られて良かったと思いました。では、これも満場一致で日本文教出版でよろしいしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 では、「美術」の教科書は「日本文教出版株式会社」を採択することと決定いたします。それでは、引き続きまして保健体育です。指導室長、よろしく願いいたします。

【保健体育】

指導室長 保健体育の目標は「心と体を一体としてとらえ、運動や健康、安全についての理解と運動の合理的な実践をとおして、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持・増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」となっております。中でも、教科用図書を用いた学習が中心となる保健分野では、主として個人生活における健康・安全に関する理解をとおして、自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の基礎を養い、実践力の育成を図ることがねらいとなります。そこで、課題解決学習や体験的な学習を通して、適切な意思決定や行動選択を行うことができる能力を育成し、心身の健康の保持増進にかかわる実践力を高めることができることが重要になります。保健体育の現在使用している教科書は「株式会社学研教育みらい」でございます。全4者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様、ご意見がありましたらお願いいたします。教育長、お願いします。

教育長 保健体育は、保健編と体育編とで構成されておりますが、まず、保健の分野についてですが、現在、危険ドラッグの使用が社会的に大きな問題となっております。保健分野の目標にある、みずからの健康を適切に管理し改善していく資質や能力の育成という観点から重要であることから、未成年にとって大きな問題となる喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する内容の比較で検討してみたいと思います。まず、東京書籍ですけれども、122から131ページがその該当のところですよ。この中で、喫煙や

飲酒の害や影響について、さまざまなデータや写真を使って説明されています。とりわけ薬物乱用の害ですね。126ページです。ページが上にあって見にくいのですが、薬物乱用の害と心身への影響について、薬物乱用が社会に与える影響という視野も入れて、わかりやすく説明するとともに、適切な対処法として具体的に考えさせようとしている内容が特徴的だと言えます。次に、大日本図書になります。122から129ページです。これも同様に、喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけという項目を立てて、危険な行動を避ける力、誘惑があっても明確な断り方を考えさせる内容となっているのが印象的になっております。薬剤の後ろのほうですね。それから、大修館書店です。ここの口絵7ですけれども、非常に印象的な写真でございまして、喫煙による肺の変化だとか、有機溶剤乱用による脳の変化などの写真が大きく掲載されているのが特徴です。内容的には各社とも同様な記載がされております。最後に学研教育みらいです。これは100から109ページになります。喫煙等が与える心身への害や影響に加えて、乱用のきっかけをいろいろな観点から説明するとともに、犯罪等につながる危険性が詳しく記載され、自分の身を守る対処法が演習として記載されております。こうしたことが保健分野の特徴的な点でございまして。次に、体育分野ですけれども、東京書籍は、運動の多様性や心身に与える効果、スポーツの果たす文化的意義などがバランスよく書かれておりますけれども、保健編に比べ体育編のページ数は他の3社に比べて少ないのが少し気になるところです。次に、大日本図書ですけれども、文化としてのスポーツの意義より、運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全等について詳しく記載するとともに、巻末資料、26から29ページに、具体的に体力の向上や新体力テストの記載が理解しやすいような内容となっています。また、大修館書店では、運動やスポーツの心身への効果に加えて、運動、体育技能や運動計画の立て方、これは18から19ページに書いています。こうしたことで生徒に、こうした記載をもとに動機づけさせているのが特徴的な点であります。最後に学研教育みらいです。スポーツの多様性やスポーツの効果と安全の章と、文化としてのスポーツの章がバランスよく構成されているかなと思います。また、巻末資料175ページに、日本とオリンピックとして、日本におけるオリンピックの歴史等が掲載されているのも印象的です。以上、総合的に比較検討した結果、私は学研教育みらいを推したいと考えております。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。阿部委員。

阿部委員 私は、特にどれを選んでも遜色ないというほど、皆それぞれ良さがあると思いますが、強いて選ぶとしたら学研教育みらいとなろうかと思えます。私は、なるべくわかりやすく平易な教科書という観点から見ましたが、いずれの教科書も、易しさ、わかりやすいという点では、よくできていると思えます。あと、保健体育はやはり写真とかイラストなどでわかりやすく説明をしているかどうかという観点から考えますと、学研教育みらいが比較的写真とかイラストの掲載が多いように感じました。そのほか、個別の問題としては、思春期の心の問題をどう扱っているか、薬物とか感染症をどう扱っていくか、それからけがや応急処置についてどう扱っていくか、オリンピックについて話題を取り上げているかどうか、幾つかの観点から見た場合に、総合的に学研教育みらいか、大修館書店が比較的わかりやすく、よく説明している印象を受けました。学研教育みらいに関して若干物足りないのは、たばこが肺の害等の写真がインパクトがあまりないのですが、大修館書店の方は、先ほどご指摘があったように、本の初めのほうに生々しい写真があって、これを見るとやはり気をつけようという気を子供のときから起こしていただくとありがたいので、そういう意味では、この分野に関しては大修館書店が非常にインパクトが強いと思いましたが、総合的に見ると、学研教育みらいが一番バランスがとれているのではないかとということで、推薦したいと思えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、坂根委員、どうぞ。

坂根委員 私も学研教育みらいを薦めます。例えば、スポーツ、文化に関しての人物の取り上げ方ですね。例えば人見絹枝、147ページです。それから、嘉納治五郎、159ページ。文化としてのスポーツで、ここに嘉納治五郎が出ています。武道の近代柔道の創始者ですが、それだけではなく東京高師などの教育者としても貢献した人ですね。それから留学生の積極的な受け入れもしました。このようにスポーツをとおして考える意味でも必要なことかと思えます。スポーツにかかわる仕事、スポーツ記者、ライターなどもここに出ています。それから、学研教育みらいはSNSとかインターネット依存症なども書いてあります。また、これからの課題ですが、がんについてです。これから新しく教科内容に入ることと思いますが、がん検診についても122ページにあります。各社それぞれ書いてあります、健康な社会ということですね。そういうこともこれから必要な項目だと考えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。雁部委員。

雁部委員 私は、学研教育みらいあるいは東京書籍が良いかなと思っております。まず、東京書籍からですね。喫煙予防、それから飲酒、薬物乱用、エイズ予防、薬の飲み方等、單元ごとに大変見やすくまとめてあると思えます。ただ、一番気になるのが10ページの生殖機能の成熟というところで、男の子と女の子の裸の絵が載っているのですが、これは、例えば内臓とかを示すものであればいいのですが、おそらくこのままだと、いたずら心を出して、いたずらで誰かのノート描き込むとかそういう可能性もあるので、こういう絵は載せないほうが良いかなと思いました。これは心配なので、そういうことを指摘させていただきます。大日本図書は、グラフを多用していて、見やすくできておりまして、体力向上についての説明、または交通事故のグラフを多用して、大変わかりやすいと思えます。大修館書店は、65ページですが、相談できるところの紹介が載っておりまして、これはすごく役に立つのではないかと。あと、単元の導入にクエスチョン、クイズ形式で、これもおもしろいかなと思いました。学研教育みらいの良いところは109ページ、誘われたらどうするかという対処法が載っておりまして、具体的な例ですけれども、こういう対処法。それから、戻って31ページ、コミュニケーションという場面で、最近の若い子はコミュニケーションのとり方があまり上手じゃないので、コミュニケーションのとり方というのを説明してあるのも大変良いと思いました。ただ、こちらも、先ほど教育長から説明がありましたが、巻末178ページの日本とオリンピックというところの題目に、パラリンピックという言葉を入れてほしかったなと思えます。結果的には、私も学研教育みらいが良いと思えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も、学研教育みらいが全体にバランスがとれていてよいと思えますので、これも、では、満場一致で、学研でよろしゅうございますか。

坂根委員 学研教育みらいのオリンピック・パラリンピックの件ですが、178ページのメインスタジアムとなる予定の新国立競技場イメージ図のほうに、オリンピック・パラリンピックという言葉は入っています。この図は多分変わるのだと思えます。

雁部委員 本文に入っているのは承知しておりますが、題目に入れてほしかったということで。

坂根委員 わかりました。

横井委員長 それでは、「保健体育」の教科書は「株式会社学研教育みらい」を採択することにいたします。それでは、「技術・家庭（技術分野）」についての審議をいたします。指導室長、よろしくお願いいいたします。

【技術・家庭（技術分野）】

指導室長 技術・家庭全体の目標は「生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」となっております。次に技術分野の目標は、「実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し、活用する能力と態度を育てる。」となっております。学習指導要領では、現代社会で活用されている多様な技術を4つの内容に整理し、すべての生徒に履修させることとなっております。4つの内容は「材料と加工に関する技術、エネルギー変換に関する技術、生物育成に関する技術、情報に関する技術」でございます。また、思考力・判断力・表現力を育成するため、「言語活動の充実」の観点から、レポートの作成や論述、設計図やフローチャートを用いて考えたり、考えを伝え合う活動を充実させたりすることが求められている点でございます。技術分野で現在使用している教科書は、「東京書籍株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さんのご意見をお願いいたします。はい、阿部委員どうぞ。

阿部委員 技術分野に関しては、東京書籍を推薦したいと思います。技術分野は、大きく分かれて4つの分野に分かれているようです。一つは材料と加工に関する技術、2番目にエネルギー変換に関する技術、3番目に生物生育に関する技術、そして4番目に情報に関する技術と、このように分かっているようです。それぞれの分野で各教科書を比較・検討しました。いずれの分野でも東京書籍の本が、判はA B判で、他社がB 5判なので、若干判が大きいことに加えて、写真とか図が非常に懇切丁寧に掲載されていて、非常にわかりやすいという特色があると思います。それから、材料の加工の技術とかエネルギー、あるいは生物の育成等については、ほとんど3つの教科書ともよく述べられていますが、視覚的にいろいろな写真とか図の上では、東京書籍が一番わかりやすいと思います。私が一番大事だと思うのは、これからいわゆる情報に関する分野の技術ですが、どのような教え方をしているのかを重点的に比較・検討しました。この分野でも、やはり東京書籍では、192ページから最後までこの分野になりますが、東京書籍の場合はインターネットから入って、まずセキュリティの問題、あるいはネット利用に伴うモラルとか、著作権の説明などがあります。この辺は非常に懇切丁寧に説明しているので、これからのデジタル時代にふさわしい内容になっていると思います。あと、プラスアルファとして、巻末に防災手帳というのが付録についており、防災に関していろいろ学ぶべき知識がよく整理されています。特に本区の場合にはいろいろ防災に関する教育の必要性が高いわけですので、これはなかなか便利な付録であろうと思います。そのほか情報関係では、教育図書については、説明が東京書籍と比べると少し簡素で物足りない印象は受けます。さらに教育図書では、246ページ以降で特定のプログラム言語を使って、かなり詳細に実際のプログラムの流れを説明しているのですが、恐らく授業でここまでプログラム言語を使って勉強する必要があるのかどうか、ちょっとこの点が気になるところで、普通はいわゆるフローチャートのような、どういう流れで判断が進んでいくのかというレベルをまず教えていけばいいのではないかと思いました。この点、開隆堂については、インターネットとか、あるいはデジタル時代の危険性やセキュリティ、モラルの問題等に関してはよく説明がなされていました。ただ、全体のバランスからすると、東京書籍の方がすぐれていると思いますの

で、結論としては東京書籍ということにしたいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。雁部委員。

雁部委員 技術については、私も東京書籍をお薦めしたいと思います。まず、東京書籍は、導入はわかりやすく、安全についても丁寧に説明してあります。あとはものづくり、スカイツリー。製作に関しては机、身近なものを取り上げていて良いと思います。東京書籍54ページ、基礎技能ということで、木材のけがき、金属のけがき、両方とも詳しく載っておりますので、これは参考になるかなと。あと、技術の匠というコラムがありまして、そこは職業紹介も兼ね、将来の希望を持たせているのが良いかなと。111ページの回路系の使い方ですね。電気というのはなかなか難しいというイメージがあるのですが、回路系の使い方を覚えておくと、何か動かなくなったときに簡単に調べられるので、この使い方というのは覚えておいたほうが良いと思いますね。あと160ページの栽培暦、これは見やすく大変良いと思います。東京書籍の場合は、大人が読んでも楽しめるような本になっていて、大変良いかなと思います。教育図書ですが、18、19ページにスカイツリーが載っておりまして、これも、先ほどいろいろな本で載っていましたが、技術的なことでスカイツリーを取り上げているのは非常にインパクトがあると思います。ものづくりの説明で、各章とも写真、イラスト、順を追って丁寧に、わかりやすく説明してあります。186ページの栽培計画表の記録の書き方も、この例はすごく良いかなと。223ページから226ページまでありますけれども、エクセルの使い方が表示してあるので、簡単な表計算をつくるというのは、これを見ながらやればできるかなと。こういうのも大変良いと思います。巻末の口絵6、ここは「世界に誇る日本の技術」と載っていますけれども、この右上に建造物や伝統製品の項目だけ載っていて写真がないので、これはもったいないなと思いました。どこかに写真を掲載していただければと思いました。開隆堂ですが、ガイダンス、見開き2ページですね。ガイダンスで過去からの流れを示しているのも大変良いと思います。16ページ、安全に関して、気をつけることを並べてあるのは良いかなと。ただ、全体的に写真も字も小さいところが多くて、ちょっとほかの教科に比べて、やはり阿部委員がおっしゃったように、てんこ盛りで、統一性がないかなということで、全体的に見て、東京書籍をお薦めしたいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、坂根委員どうぞ。

坂根委員 私も東京書籍を薦めます。情報に関することで、202ページの通信ネットワークについて、結構知っているようで知らないことが書いてあります。「仕組みを知ろう」と。無線LANとか校内LANと、こういうこともきちっと勉強できるということですね。それから、大事なことが209ページのデータの暗号化、バックアップ、セキュリティのソフトウェア。これ書いてありますけれども、これも本当に今すぐにでも必要なことなので、それを学ぶということは大事だと思います。契約のことも。ただ、ICTに関しましては、もう日々更新しているような状態ですから、その場その場で、現場での新しい情報を提供することが大事だと考えます。また、「さしがね」というような言葉も出て、実物も出てきました。これは言葉も残したいです。それから、教育図書の、裏表紙の口絵のところ、痛くないインスリン用注射針、これ、東京都墨田区で開発されたものです。皆さんよくご存じだと思いますが、世界に誇る素晴らしい注射針です。こういう点が評価できると思います。以上、簡単ですが、終わります。

横井委員長 ありがとうございます。教育長。

教育長 私も東京書籍が、どの分野も基礎的な内容から発展的な内容まで資料が充実しているのかなと。それから、技術科で大事だと考えられる実習例数が、他社と比較すると一番多いかなと思います。

また、分野ごとにバランスよく取り上げられていることから、東京書籍を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も東京書籍が、先ほど話に出ていますセキュリティやモラルの問題だとか、それから、製作工程の写真やイラストが大変わかりやすく、扱いやすいのではないかと思います。それでは、これも満場一致で東京書籍でよろしゅうございますね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「技術・家庭(技術分野)」の教科書は「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。では、引き続き家庭分野について、指導室長、お願いいたします。

【技術・家庭(家庭分野)】

指導室長 家庭分野の目標は「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これらの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。」となっております。次に学習指導要領による主なポイントですが、1つ目は、家族・家庭に関する教育の充実。2つ目は、食育の推進。3つ目は、消費者をはぐくむ視点の充実。4つ目は、生活文化の継承と発展の視点の重視、等の点がそれぞれ新規に、または色濃く取り扱われることとなっております。家庭分野の現在使用している教科書は、「東京書籍株式会社」でございます。全3者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員の皆さん、ご意見をお願いいたします。雁部委員、どうぞ。

雁部委員 家庭について、結論から申し上げますと、東京書籍をお薦めしたいと思います。まず東京書籍の目次、学習の流れ、これから学んでいくことを明確にあらわしております。28ページ、中学生に必要な栄養について表示してあります。34ページの折り込みには食品群と摂取量の分類、46ページ、47ページで、食品添加物の用途別分類の表、あるいは食品の表示マークを表示してあります。58ページ、肉の調理を工夫しようというところで、牛肉、豚肉、鶏肉とも部類の名前を書きありまして、その肉の写真も載っていて、非常にわかりやすいかなと。60ページからレシピ、これも写真がすごくきれいで、64ページの一番上のシチュー、あるいは78ページの豚汁なんかも湯気まで載っていて、食欲をそそるような構成になっていて大変良いと思います。88、89ページで日本の郷土料理を紹介しています。110ページは地域の伝統を伝えるということで、いろんな衣装の文様が載っております。119ページ、繊維の種類、これもわかりやすく表示してあって良いと思います。204ページ、実習例で、触れ合い地域体験のことで取り上げてありまして、これは非常に良いのではないかと。267ページ、学んだことを社会に生かすということで、各職業が書いてありますので、私もこれになろうかなと夢を持てるのかなと。開隆堂ですが、A、B、C、Dの構成になっていまして、「A家族と家庭と子供の成長」、ここは幼児から中学生までを、成長の様子をたどっていきわかりやすいかなと。「B食生活と自立」ですね。ただ、76、77ページ、こちら折り込みになっているのですが、実物大の表示がされていて、とても見やすいと思います。ただ、開隆堂は、技術もそうですが、ちょっと項目が細かくて見づらくて、どうしてもごちゃごちゃ感が否めないのが欠点かなと。あと、教育図書ですが、こちらも学習の目的と学習の流れを明確に説明してあります。年中行事も載っていて、ここは非常に良いです。各章の最初のページでグラフを多用してありまして、こ

れも大変良いかなと。キーワードチェックもよくて、挿絵の漫画は非常にほっこりした感じで、とても良いと思います。6ページの第1章、「家族と家庭生活」というところから入っておりまして、家族とのコミュニケーション、地域とのつながりというところまで発展して説明してあります。62ページ、「生活の課題と実践」ということで、流れを説明してありまして、これも良いかな。136、137ページ、東京書籍にもありますけれども、全国の郷土料理、これはおもしろいと思います。あと、162ページの事故の例を漫画で説明していて、日ごろの生活に必要な知識が満載されているところも良いと思います。もう一つだけ、246ページのトラブルの解決方法というのは、かなりわかりやすいかなと思いました。以上、全般的なバランス、見合った学びやすさを考えると、東京書籍が良いと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ご意見のある方、どうぞ。坂根委員。

坂根委員 私も東京書籍を推薦いたします。今、詳しく3社の内容について雁部委員がおっしゃったので、それにつけ加えます。東京書籍は「目ばかり、手ばかり」という表現をして、今こういう言葉を残すということは大変結構なことだと思います。それから最初のところ、14、15ページでは「問題を解決する」、これが大変にわかりやすく良いです。「課題発見、計画、実践、評価、改善」、こういう次の課題への取り組みが良くできています。開隆堂も最後にありますが、こちらのほうがわかりやすいと思います。先ほど雁部委員がおっしゃった204ページ、幼児の施設に行ってみよう。206ページ、中学校へようこそ。これ、幼保小中一貫に関連しています。これを見ると、まさに実践ができるような内容だと考えます。社会的事象は各社いろいろありますが、てんこ盛りというほどです。教育図書はコレクティブハウスの説明とか、また165ページは犯罪被害に遭いやすい住まい、テレビなどでやりますけれども、それそのままですね。フェアトレードとかグリーンコンシューマーなどの用語と事象。開隆堂は、男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス、55ページでは、ワーク・ライフ・バランスとファザーリング・ジャパンの取組とか、そういうことも書いてあります。これを全部学んだ子供たちに対して、大人はもう一度勉強し直さなければいけないとなるような、素晴らしい内容がたくさん盛られています。終わりです。

横井委員長 ありがとうございます。阿部委員。

阿部委員 私も、家庭に関しては東京書籍が良いと思います。技術課程と同様に判が大きいことと、やはり写真とかイラスト、特に料理のところは、雁部委員がおっしゃったように、本当にできたそのままをうまく写真であらわしていますし、作り方も懇切丁寧に書かれていますので、私のような料理のわからない人間にもよく理解できるので、非常に親切な内容だと思います。あと、東京書籍の良いところは、子供たちが消費生活を学ぶ上で、いろんな販売とか、あるいはトラブルに巻き込まれた場合にどうするか、このあたりの権利はどういうようになるのかということ、比較的易しく説明しているので、この点が良いと思います。開隆堂は、消費者としてのいろいろなトラブルの問題について、当然触れてはいますが、少しシンプルでわかりにくいのかなという印象を受けました。教育図書は、これはほぼ東京書籍と同じように、比較的簡潔ですが平易に書いてあって、非常にわかりやすい内容ですが、ほかの分野ではやはり写真とか説明の平易さを考えますと、東京書籍が良いだろうという結論です。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。では、教育長、お願いします。

教育長 私も3社の間に大きな差はないように思いますが、東京書籍では10、11ページに小学校家庭科の既習内容が丁寧に説明された上で、それを踏まえた中学校3年間の学習を見通すことができ

る項目があります。これは、非常に良い点かなと思います。それから資料として、139ページですけれども、右の上です。地域の防災力を高めるということで、この墨田区の防災対応の事例が紹介されているのが印象的でありますので、私も東京書籍を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。皆さん東京書籍ということで、私も結構であります。1つ強調しておきたいことがあります。東京書籍の188ページ、幼児の心の発達についてというところで、私、確かめていないのですが、もしかすると1歳以降が対象ですかね。学習指導要領でね。ほかは乳児のことを書いていないのですが、ここ、乳児について少しだけ触れています。これ非常に重要なことで、ほかは触れていないのですが、だから範囲外かもしれないのですけれども。188ページの左の社会性というところを見ていただきたいのですが、1歳ごろまではほとんど大人に頼って生活をしているがと書いてありますよね。そのすぐ右上に、1歳のころは大人に見守られて安心して遊ぶと。乳児、生まれて直後の赤ん坊というのは、まだ本当はお母さんのおなかの中にいたほうがいい程度の育ち方をしているわけですね。ですから、完全に保護されていなければいけないので、しつけなんかできるわけがないのに、よく乳児が泣いたからどうこうするとかっていうのが出てきますけれども、そういうようなことが起こらないためには、こういうふうなことをぜひいろんな機会に、今の時代ですから、もしかすると、中学卒業してしばらくすれば女の子なんか結婚して子供できるかもしれないのですが、そういうときに、乳児はまだ本当はおなかの中に入れておくべき子なんだよくらいの指導がないといけないなと思ったので、そういうきっかけになればと思って、これが大変良い指摘だなと思います。というわけで、これも満場一致で、東京書籍ということでよろしゅうございますね。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 それでは、「技術・家庭(家庭分野)」の教科書は「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。それでは、「外国語」について、指導室長、よろしく願いいたします。

【外国語】

指導室長 外国語の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うこと」となっております。学習指導要領の主なポイントを5点申し上げます。最初に申し上げます二つは前回の採択からの変更点です。事業時数が各学年105時間から140時間に増加していること。指導すべき単語数が、900語程度から1200語程度に増加していることです。それから、4技能(「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」)を総合的に育成する指導を充実させること。それから、発音と綴りとを関連付けて指導することも求められること。さらに5つ目は、小学校における外国語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえることの5点が求められています。現在使用している英語の教科書は「東京書籍株式会社」でございます。全6者からの採択をお願いします。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、どなたか。教育長、お願いします。

教育長 それでは、私から。英語教科では、選定に当たっての観点としては、まず、小中の円滑な接続ということがあると思います。本区における小学校での外国語活動の内容や指導の実態等を踏まえることが必要であると思います。そうした中で、多くの社の本で、本編に入る前に外国語活動に関する振り返りのページが設けられております。そうしたことで、小学校からの接続に配慮されている中で、東京書籍、三省堂、そして教育出版の3社が比較的丁寧に掲出されているのかなと私は思ってい

ます。まず、東京書籍では「Hi, English!」ということで、いずれも1年本ですけれども、4ページから6ページです。ここで身の回りのものを英語で表現させるなど、小学校での外国語活動を振り返り補完することに加えて、12ページですけれども、Unit 0で二層型にして対応している点がよいと考えます。次に、三省堂です。「Get Ready」ということで、6から17ページの間です。身の回りに関する英語に加えて、アルファベット、英語の音とつづりなど、本編に入る前の段階で中学英語への接続が意識された編集となっています。また、教育出版では、2から17ページです。「Springboard」ということで、各社の中で最も多いページ数で、三省堂と同様に、中学英語への接続が意識された編集であるように思います。次の観点では、すみだ学力向上推進会議報告書からは、本区の中学生在が英作文への苦手意識がかなり高いことが読み取れます。例えば区の学習状況調査における作文の問題に対して、3割近い生徒が無解答という状況があります。したがって、書くことへの意欲を高める教材であるほか、英語辞書の使い方が適切に示されて、語彙力を高める教材であることが重要であると考えます。まず、辞書の使い方については、東京書籍ですけれども、1年本で2カ所、37ページと52ページです。2年本でも1カ所、31ページですけれども、学び方コーナーで辞書の使い方が掲載されています。語彙をふやすために辞書を引く習慣身につけさせるために、効果的である内容となっています。また、開隆堂でも、辞書を引いてみようとのコーナーが1カ所、23ページです。英語の辞書はどんな順序で単語並んでいるのでしょうかという表題が出ていますけれども。それから、三省堂では、1年86ページと2年40ページに辞書を引いてみようが記載されていまして、とりわけ2年本では和英辞書の使い方も示されています。教育出版では、1年本128、129ページに基礎的な使用に加えて、さらに2年本110、111ページでは、形容詞の調べ方やアクセントや音節の調べ方など、かなりわかりやすい内容となっております。光村図書出版では、1年本26ページで、辞書を使おうで、英和辞典と和英辞典の基本的な使い方が示されています。次に作文ですが、多くの社で1年からライティング、書く活動が組み込まれていますが、そのうち、東京書籍では、1年本54ページ、それから104ページ、それから126ページ、プレゼンテーションというコーナーで、既に習った題材を使って、身近なテーマでスピーチに取り組むような構成となっている点が良い点かなと思います。その他、各社本の特徴的な点を申し上げますと、開隆堂は巻末に、できるようになったリストを補足しております。これで、自ら習熟度をはかることができるようになっております。学校図書本は1年本135ページ、綴りと発音、それから142ページに目標文のまとめ、それから155ページにローマ字がそれぞれ掲載されて、英語に苦手意識を持つ生徒に取り組みやすい内容と言えます。また、三省堂は、1年の英語学習の導入の段階で、18、19ページですけれども、クラスルーム・イングリッシュや英語の発音のパートが豊富であるほか、附属の読み物が、それ、2年本、3年本も同じですけれども、豊富な点が特徴かなと思います。それから教育出版が、別冊があり、これを活用して、教科書で学習した語句や基本を復習することができる体裁となっております。最後に、光村図書の1年本は会話が中心となっていて、小学校から1年ということで、生徒としては取り組みやすい内容だと思います。以上、総合的に比較検討しますと、三省堂も良い点がありますが、小学校の外国語活動との接続や、先ほど申し上げました本区の抱える課題、そして、聞く、話す、読む、書くという4技能、生徒の身近な題材を通じてバランスよく構成されている点から、結論として、私は東京書籍を推したいと思います。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかの委員の皆様、どうぞ。坂根委員。

坂根委員 全般的な説明ありがとうございます。私も、第1に東京書籍の「NEW HORIZO

N」第2に三省堂の「NEW CROWN」を推したいと思います。使える英語という観点ですね。コミュニケーションの手段としての英語、これは英会話だけではなく、確かな文法力に基づいた基本的な構文の習得と適切な使用法が大切だと考えています。ここで1つはっきりさせたいのは、英文法の用語の記憶と文法力の発展は違うということです。皆さんも学校文法、英文法で、現在分詞とか過去分詞、受け身とか使役など習ったと思います。これは英文法の用語です。しかし、それがわかったからといって文法力が伸びるわけではありません。ここはやはり英語教育に問題があるのではないかと考えます。一つの例を、三人称単数現在ということで例を挙げたいと思います。3冊で考えます。東京書籍74、75ページ、三省堂76ページ、それから開隆堂76、77ページ。ここで三人称単数現在の形ができています。これは英文法の最初の関門ですが、このときに、三人称とは何ぞやということを中心に始っている教科書があります。例えば開隆堂は、文の主語が三人称で単数、時が現在の場合には動詞の形が変わりますとなっています。もうこれで何だか嫌になってしまう学習者もあるでしょう。それから、三省堂の場合は、主語が三人称で単数のときには、ここから始まっています。一番東京書籍がわかりやすいと思うのは、三人称とは自分と相手以外のものとなっている点です。絵が描いてあり、I、we、一人称、you、youで二人称、she、he、they、これが全部三人称と。次に肯定文、否定文、疑問文の対応という形になっていて、likeの主語が、「ハルキ」になったらlikes。次に否定文は、doesn't like。こういう形になっています。東京書籍ではこの1ページだけです。ただ、ほかの2社の場合は、三人称単数現在の見開きのページに、人称、人称代名詞。開隆堂は順が逆です。77ページに人称で76ページに代名詞。代名詞となると、I、my、me、mine、この形が書いてあります。つまり、情報量が多く、そのために学習者が混乱するかもしれません。その点で東京書籍では文法は1ページに一つで終え、次のときに、友達のプロフィール、発展的な内容になっています。では、東京書籍は代名詞をどこに入れているかということ、1年93ページです。まとめと練習、代名詞があります。そこで、Iのところの上に「は」、myのところ「の」、me、「を」、こういう形になっております。三省堂も77ページ左、人称代名詞などの言い方、「が」、「は」、「の」とか。「が」、「は」の下は主語になっていますね。開隆堂になりますと、76ページ。人称、主語のとき「は」、「が」、所有をあらわすとき「の」、こういうふうに、文法用語の説明が多くなっています。でも、ここで必要なのは理解することで、文法用語の説明ではないということです。それが「説明は少なく内容は豊かにする」ということだと思います。もう一つ例を申し上げます。ここで東京書籍の場合は、代名詞と同じページに音の変化というものもあります。音の変化というのは、消える音、p、t、k、d、g、hです。座るは「シット・ダウン」じゃないです。「シッダウン」。また「グッド・ナイト」ではなく「グッナイ」。このtが消える、dが消え、つながる音、変わる音ですね。「ミート・ユー」じゃなくて「ミーチュー」、「ミーチューヘルプ」、こういう形でつながるということをここで、「三単現」と同じ比重で考えているということが大事だと思います。ほかのこともいろいろありますが、短作文に関しましてもプレゼンテーションで、先ほど教育長がおっしゃったように、非常にわかりやすい形になっています。別の社の場合には、名前、学校、出身地、住所など何か身上調査のような形で答えさせるものもあり、その点で東京書籍が優れていると考えました。以上が私の東京書籍を推す理由です。

横井委員長 ありがとうございます。ほかの委員、いかがでしょうか。阿部委員。

阿部委員 私も東京書籍がこの中では良いのではないかと思います。英語の文章そのものの良し悪しというのはなかなかわかりにくいのですが、まず、東京書籍は比較的絵とか写真がきれいで、また明

るイメージで、全体を拝見するとゆったりしていて、とても読みやすいという印象です。ほかの学校図書とか、あるいは教育図書は、若干判が小さいこともあって、かなり文字が本の端ぎりぎりまで印刷されていて、ちょっと詰まった感じがするので、やっぱり判の大きい方が見やすいなという印象を持ちました。私も、どの教科書を使っても、それぞれ先生方が教えやすいような形でお使いになるでしょうから、どれも遜色はないと思います。ただ気付いた点は、例えば開隆堂は、教え方が若干他とは方法が違って、1年でいうと94ページ。左側にベーシックダイアログとして、まず基本となる会話の言葉が出てきて、これを勉強した後に右側に少し長文が出てくるというスタイルで、まず先に基本となる会話なり文章を勉強して、練習した後に長文に入るといったようなスタイルです。東京書籍を含めたほかの教科書は、最初に長い文章が出てきて、その後いろいろなこれに関連する事項を勉強するというので、取り組み方が少し違うのが特色かなと思いました。いずれもそれぞれの教え方があるのですが、開隆堂は多分、会話を重視した教え方なのかなと思います。少し流れが変わるので、今、先生方の推している教科書と変わってしまうとどうなのかなということで、両者比べた場合に、開隆堂もなかなか魅力的ではあるのですが、東京書籍が一番良いだろうという結論になりました。ほかの書籍も、それぞれ個々のいろいろな良い点があるので、遜色はありませんけれども、全体的なバランスで申し上げると、東京書籍が一番良いということになりました。東京書籍ということをお願いしたいと思います。

横井委員長 ありがとうございます。では、雁部委員。

雁部委員 まず、英語については、小学校からなれ親しむ授業はしてはありますが、一步導入を間違えると、英語が嫌いになってしまう傾向がありますので、まず、導入に関しては易しいということにポイントを置いて見てみましたが、どこの会社も導入はすごく易くできていて、問題はないと思います。英語の歌も幾つか入っておりまして、子供たちは、日本の歌でも、英語の歌詞には親しんでおりますので、多分、英語の歌を取り入れることによって、また英語が楽しいのかなと感じられると思います。あと、東京書籍の細かいことを言いますと、今、阿部委員からも説明がありましたが、Dialy Scene で日常必要な会話、手紙、メールなどを取り上げて、話す、書く技能にポイントを置いております。東京書籍は全体的にわかりやすい構成となっております。開隆堂も、各プログラムの最初にベーシックダイアログを設けて、基礎・基本の定着を図っている。パワーアップでは、「聞く、話す、読む、書く」の技術向上を目指している。全体的に、これもそつない教科書となっております。学校図書は、52ページにスカイツリーを題材にしているので、これは親しみやすいかなと。全般的に、左が文章、右が問題となっていて、パターンが統一されている。これは、ほかの会社いくつかはそうですね。学校図書52ページを見ていただくと、「Nice to meet you」でスカイツリーを題材にして取り上げている。それから、110ページに点字が載っているの、点字を実際にさわってわかるようになっております。これも、「A、B、C、D…」を点字であらわすということで、おもしろいと思いました。三省堂は、付録の138ページ、英語の文字等についての説明が詳しく載っております。読み物については、子供たちには少し難解かもしれないかなと思いました。教育出版は2分冊になっておりまして、これも評価分かれるところですが、2冊目にマスキングシート、赤いシートがついていて、これは私の子供も実際使っているのですが、語句とかの習得にすごく良いです。あと、巻末の折り込みにPCのキーボード表、ほとんどこのままの大きさの表がついていて良いと思います。教育長からも説明ありましたが、辞書の引き方については128ページ、教育出版の引き方が2ページにわたって載ってしまっていて、大きくてわかりやすいと思いました。また、ポップで短文、ステップで長

文を扱って、順を追って読解力の定着を図っております。3年の教科書では、世界で活躍しているスポーツ選手を題材にして、興味を引く工夫をしております。光村図書ですが、1年生は会話が中心で、大変取り組みやすい内容となっております。2年で国語の題材を取り上げているところは光村図書らしいなと思いました。そのほか、106ページ、体のパーツの名称、あるいは166ページの基本文の一覧、あるいは巻末で、それぞれの場面で使う言葉などを載せていて、それも良いかなと思いました。ただ、総合的に見まして、東京書籍が一番わかりやすいと思いました。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。私も東京書籍で結構なのではないかと思えます。1つ、東京書籍3年の150ページ、マララ・ユスフザイさんのエデュケーション・ファーストという文です。これは彼女本人が喋った内容で、16歳でしたかね、このとき。ですから、習っている子供たちとほとんど同じ世代なわけですから、そういう子供が、多分このお子さんは英語が母国語だろうと思えますけれども、パキスタンですからね。それで、話の中身が、墨田区の子供たちにしてみればショッキングな話なわけで、意識を高める上でも役に立つかもしれないと。マララ・ユスフザイさんの話は、開隆堂の3年には伝記的な紹介で載っております。それから、三省堂も裏見返しに「One child, one teacher」という言葉が2行載っているだけで、子供、16歳の女の子が喋ったこと全部載っているということに非常に意味があるかなと。資料的な扱いのようですがけれども、意味があるかなという感じがします。それでは、これも満場一致で東京書籍となりますけれども、よろしゅうございませぬ。はい、どうぞ、何か。

坂根委員 先ほど言い忘れたのですが、東京書籍1年の145ページ。一日の生活の流れが書いてあります。起きてから寝るまでで、30項目あります。各社それぞれ絵であったり文章であったりするのですが、開隆堂の場合は項目が13ぐらいです。他社さんのものより細かく一日の生活を英語で考えるという利点があると思えます。細かい点を申し上げますと、23番目の「help out in the kitchen」の絵で、料理を作っているのが男性、お父さんらしいです。24番目の「have dinner」、これはお母さんらしい人と食べています。25番目の「wash the dishes」、皿を洗っているのは本人らしい。これは、例えば異文化理解教育とか、留学、短期留学したときに、違う文化だということを知るためにも使える内容ではないかと思えます。以上です。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、全員が東京書籍ということですので、「外国語」の教科書は「東京書籍株式会社」を採択することに決定いたします。以上で、全ての教科等について、採択が終了しました。引き続きまして、議決事項第2・議案第62号「平成28年度使用教科書（特別支援学級用）の採択について」の説明をお願いいたします。

議決事項第2

議案第62号「平成28年度使用教科用図書（特別支援学級用）の採択について」を上程する。

指導室長 提案理由といたしましては、墨田区立小・中学校特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるとさせていただきます。小・中学校の特別支援学級で使用する教科書につきましては、3つの選択肢がございます。1つ目は、本区でただいま採択していただいた検定済教科書を使用することとさせていただきます。2つ目は、特別支援学校において使用されている文部科学省が著作の名義を有する教科用図書です。3つ目は、一般に販売されている図書、いわゆる「一般図書」を教科書として使用するというものでございます。そのうちの、検定済教科書につきましては、特別支援学級では、在籍する学年の教科書だけでなく児童・生徒の障害等の実態に応じて、下の学年の教科書や同学

年で異なる教科書を使用することもできるということが法令で認められております。また、中学校の特別支援学級が、小学校用の検定済教科書を使用する場合には、本区の小学校で採択されている教科書であれば、使用することが認められております。文部科学省が著作の名義を有する教科用図書については、文部科学省が平成27年4月に発行した「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録」の中の知的障害者用の教科書を使用することになっております。お手元に目録がございますのでご覧ください。本区で使用する「一般図書」については、東京都教育委員会が調査研究している一般図書の中から選ぶように各学校に通知しております。お手元にある資料が、東京都から報告されました「平成26～28年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」でございます。本区において平成24年度までは、特別支援学級（固定）設置校が選んだ一般図書や文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を採択しておりましたが、一般図書については、採択後に絶版になってしまった経緯がございます。その場合、他の一般図書の中に児童・生徒にとって適当と思われるものがあつたとしても、区が採択した図書の中から選ばなければならない状況がありました。そこで平成25年度から、特別支援学級に在籍する一人一人の実態に応じた図書を給与するという観点から、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録」に記載されている知的障害者用のすべてと、「平成26～28年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」に記載されているすべての一般図書を採択することが望ましいと考えております。特別支援学級の教科用図書採択に関する法的根拠につきましては、学校教育法附則第9条及び学校教育法施行規則第139条でございます。採択について、よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

横井委員長 ありがとうございます。それでは、委員のみなさん、ご意見をよろしくお願い致します。これは、昨年度の小学校の教科用図書採択と全く同じになりましょうかね。

指導室長 まず、調査研究のほうは26年度から28年度のものになってございますので、昨年度とは変わりません。それから、文科省で認定しているものは27年の4月付けでつくられているものですから、昨年度と多少の変更はございます。小学校の検定教科書につきましては、小学校で昨年採択していただいたものを中学校は使っても構わないということになってございます。

横井委員長 わかりました。ありがとうございます。何かご質問その他ありましたら、お願いいたします。よろしゅうございますか。雁部委員、どうぞ。

雁部委員 これは、学校ごとに決めるということですか。

指導室長 ここで決めて、学校がこの中から選ぶということです。これまでは、平成24年度までは、今お配りした目録とか調査研究資料の中から、学校が独自にいろんなものを選んで決めたものを採択していただいていたという経緯はございますが、それだと絶版になったときにほかのものが使えなくなってしまうという経緯がありますので、25年度からは、調査資料に書いてある中身、全てをこちらで採択していただいて、その中で、後から学校に選んでいただくという形にすれば、絶版になっても対応ができるという形になっていきますので、そういう形で全てを採択していただけたらということでのご提案でございます。

横井委員長 雁部委員どうぞ。

雁部委員 わかりました。要するに、学校の先生が、その決められた教科書の中から、その子に合った教科書を選んでいくということですね。

指導室長 教科書になりますので、その子に合ったというよりは、その学校の学年に合った、一人一人個別にというのではなくて、ある程度学校としての採択という形になります。

雁部委員 わかりました。それが聞きたかったのです。

横井委員長 あと、よろしゅうございますか。坂根委員。

坂根委員 学校の先生たちは、この実物が見られるのですか。

指導室長 これまでもそういったものをずっと活用しておりますので、当然それについては認識をしてございます。

坂根委員 見ることができるのですね。

指導室長 はい。

横井委員長 あと、よろしゅうございますか。それでは、平成28年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、特別支援学校において使用されている文部科学省が著作の名義を有する教科用図書及び特別支援教育教科調査研究資料に記載されている全ての一般図書を採択することに決定いたします。

(「異議なし」の声あり)

横井委員長 以上で予定の議決事項は全て終了しました。ほかに、事務局または委員から何かございますか。よろしゅうございますか。それでは、これで教育委員会を閉会いたします。